Jatco

環境社会報告書2013

Environmental & Social Report 2013

トランスミッションの開発・生産を通じ、人と社会の豊かな未来を見つめています。

エンジンと駆動輪をつなぎ、パワーをスムーズに路面に伝える。
走行シーンに応じ最適な変速比を作り出すトランスミッションは、
クルマの走行性能・環境性能を左右する「見えない主役」です。
私たちジヤトコは、よりスムーズで環境にやさしい
トランスミッションの開発・生産を通じ、
世界の自動車産業やクルマとともに暮らす
人々の生活を支えています。

ジヤトコは、
自由な発想によるアイデアの集約と
技術への飽くなき挑戦によって、お客さまと社会のニーズに的確にフィットする
高機能なオートマティックトランスミッションを
生み出しつづけています。

人に走る歓びを、社会に活力を、そして、地球にやさしさを、
つなぐ。伝える。

それが、革新へのチャレンジを続ける
ジヤトコの使命 ＝ ミッションなのです。

The mission is passion. **Jatco**

Contents

トップメッセージ 03

2012年度 目標と実績
業務の継続的改善への取り組み 06

環境活動 07
マテリアルバランス 09
環境マネジメントシステム 11
商品の取り組み 13
生産プロセスの取り組み 19
物流の取り組み 25
環境コミュニケーション 26

グローバル フィーチャーズ
海外拠点での環境保全活動 27

社会活動 29
緊急事態への対応 31
サプライヤー（取引先）とともに 33
社員と職場づくり 34
地域社会とのきずな 37

各生産拠点の環境データ 39
環境活動のあゆみ 41
会社情報 42

編集方針

最初の環境報告書から数えて9回目の発行となる今号では、ジヤトコの環境・社会に対する考え方をより深くご理解いただける報告書を目指しました。本報告書は、お客さま、サプライヤー、社員、地域住民などジヤトコのすべてのステークホルダーを対象としています。この報告書を通じ、ジヤトコの環境・社会への改善と継続的な取り組みやその貢献をご理解いただくとともに、皆さまからのご指摘を新たな課題発掘への手がかりとし、今後の取り組みに活かしていく予定です。本報告書をご一読いただき、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。
<ホームページ> http://www.jatco.co.jp/

クルマの環境性能を決める トランスミッションの可能性。

気候変動や資源の枯渇など地球規模での環境問題が社会の大きな関心を集める中、自動車業界やトランスミッション業界がいかに創造性豊かに持続可能なモビリティ社会の構築をしていくのか、期待が高まっています。日進月歩で新たな技術革新が行われる現代において、「環境とクルマが共生できる社会」の実現に向けてジヤトコの進むべき道は・・・

ジヤトコ株式会社
最高執行責任者
本田 聖二

環境への取り組みについて

Q これからの、環境とクルマ社会、トランスミッションの関係は?

クルマが地球環境に与える影響は決して小さくはありません。自動車業界の一端を担うジヤトコにとっても、CO_2の削減に向けた取り組みは最重要課題と捉えています。

クルマの環境性能向上という目標を達成するためには、単にエンジンやボディを改良するだけではなく、クルマ全体のバランスを高レベルで保つ技術の確立が必要であるように思えます。私たちジヤトコがつくるオートマチックトランスミッションも、まさにクルマの「バランス」を作り上げるために重要な役割を果たす商品であり、クルマのパワーユニットがエンジンやモーターなど多様化する中でも重要な基幹部品として、ますますその存在意義が高まっています。

オートマチックトランスミッションには、エンジンやモーターの動力を効率的に駆動輪に伝えることで、クルマをドライバーの意図したとおりに発進・加速させる「走行性能」と、燃料消費を抑えることで環境負荷低減につながる「燃費性能」が求められています。その相反する2つの性能をどれだけ高いレベルで兼ね備えることができるかが、お客さまに選ばれる商品づくりの条件になると考えています。

私たちジヤトコは、変速比幅の拡大や小型・軽量化・フリクションロスの低減などによって燃費性能を向上した「Jatco CVT7」・「Jatco CVT8」や、1モーター2クラッチを採用し高い燃費性能と走行性能を両立させたハイブリッド車用トランスミッションなど、エンジンやモーターとの協調制御の最適化を考慮した新しい技術の開発に挑戦し続けることで、お客さまのニーズに応える商品を追求しています。今後も業界のリーディングカンパニーとして、さらなる環境性能と走行性能を高次元で両立する次世代トランスミッションの開発を推進していきます。

社会への取り組みについて

Q グローバルで事業展開するジヤトコが、社会的に価値ある企業となるために、どのような施策を展開していますか?

自動車マーケットの需要は、これまでの先進国市場から、新興国市場へも拡大しつつあります。そして、その市場のニーズに応えるために、ジヤトコはグローバルでの生産拠点を拡充しています。これは各地域でのお客さまの声に耳を傾け、世界各国の自動車メーカーの期待に応える高品質の商品をタイムリーに提供することを目指したものです。すでにジヤトコ メキシコ社や中国のジヤトコ(広州)自動変速機有限公司が稼動しており、2013年には、3つ目の海外の生産拠点となるジヤトコ タイランド社も生産開始しました。

しかし、新たな地域へ進出するのは容易なことではありません。その土地の国情や政府・地域社会に対する取り組み、また大きな雇用を負うことに対する社会的責任など社会的なインパクトに配慮する必要があります。たとえば地球環境、地域社会に対して、ジヤトコという会社がそこにあって良かったと感じていただけるような取り組みを絶やさないことです。そのために、グリーン調達や省エネ・省資源活動など環境保全に向けた活動を推進し、また社会的な責務として、環境事故など社会に対する損害を生み出すことのないよう配慮することが重要です。そして、社会貢献活動として行政の窓口や地域社会などを通じたボランティアを展開するなど、積極的にそれぞれの地域社会に根ざした活動を継続して、充実させていくことも不可欠だと考えています。

モノづくりについて

Q グローバルジヤトコが目指す、「モノづくり」のマインドとは?

企業とは本来、成長を目指すものです。しかしただ儲ければいいわけではなく、社会に対する責務を果たし、そして発展に貢献するという志があってはじめて企業は成り立ち成長していくものだと思います。

現在、ジヤトコ グループの社員は1万2千人おり、グローバルでの生産拠点の拡充にともないさらにその数は増えています。そして、その一人ひとりが、異なる考え方や経験などから生み出される能力を持っています。社員の持つ多様性は、ジヤトコが持続的な成長を維持するための原動力であり、社員が事業活動を通じて互いに高めあうことで、ジヤトコならではの価値を創造します。

クルマ社会が大きな転換期を迎えようとする中、ジヤトコが社会のニーズに応える商品をこれまで以上にスピード感をもってつくり続けるためには、社員一人ひとりが「提供する価値とは何か」を自問自答し勇気をもって変革することに挑戦していくことが重要です。それこそがジヤトコの使命である「お客さま・クルマ文化・社会への価値の提供」であり、ジヤトコの目指すモノづくりの姿だと考えます。

これからについて

Q これからのジヤトコは、どのように進化していきますか?

社会的に環境意識が高まる中、今後も自動車業界およびトランスミッション業界では、環境に配慮した商品の市場拡大が予想されます。ハイブリッド車をはじめ、電気自動車やプラグインハイブリッド車など新技術の多様化は一層進むことになるでしょう。

激しく変わる状況の中で、ジヤトコは市場のニーズを的確に捉え、期待を超えた革新的な技術や商品を生み出すモノづくりへの挑戦を続けていきます。

たとえば電気自動車では、今までのガソリンエンジン車とは違い、トランスミッションの「トルクを伝達する」という機能に対する需要は、相対的に低くなります。しかし、電気自動車にはトランスミッションが全く不要かというと、そうではありません。現在、電気自動車が抱える課題には、モーターの小型化やバッテリーの効率化などが挙げられます。小さなモーターや、容量に制限のあるバッテリーを、いかに効率よく使い、動力をタイヤに伝えるか、つまり「エネルギーを伝え、マネジメントする」といった技術革新の領域で、トランスミッションのような基幹部品が活きる可能性は多くあると思います。

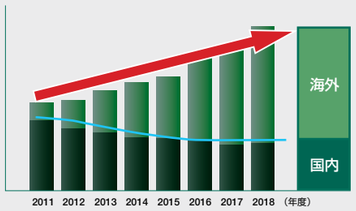
また、ガソリン·ディーゼルエンジン車においても、その燃費効率を極限まで高め、より優れた環境性能を実現する次世代トランスミッションや、需要拡大が期待される新興国に向けた低価格で高効率なトランスミッションなど、新技術·既存技術の両方に対するニーズが存在します。私たちジヤトコがその技術力を絶えず磨き続け、ジヤトコでなければ創り出せない商品を生み出し、より多くのお客さまに使用していただくことが、私たちの責務であると考えます。

ジヤトコが描く理想の社会像は「環境とクルマが共生できる社会」です。この環境理念の実現に向けた私たちの環境に対する取り組みが、持続可能な発展に貢献できると信じています。地球と将来の世代のために、私たちが果たすべき役割は何かを常に自ら問いながら、皆さまとともに新しい未来の創造を目指し、ジヤトコは進化し続けます。

Topics

「1兆円企業」を目指した取り組みが進行中です。

私たちジヤトコは、2018年に「売上高1兆円企業」となることを、全社的な目標としています。その実現のために、グローバル市場での競争力の強化、新興市場であるASEAN地域での商品供給体制の整備、ハイブリッドカーや電気自動車等の、新しい技術への対応力向上など、さまざまな取り組みを積極的に展開しています。



「未来技術センター」を新設しました。

車両の電動化技術を開発する新組織「未来技術センター」を、2012年4月に発足させました。同センターでは、これからのクルマに必要とされる技術の先行研究を行い、明日の市場をリードする技術力の蓄積を目指しています。

ジヤトコ タイランド社が稼働開始しました。

2011年7月、タイにおける生産会社「JATCO (Thailand)Co.,Ltd.(ジヤトコ タイランド社)」を設立しました。成長が見込まれるASEAN地域において、環境性能に優れたCVTの供給を通じ、環境保全に貢献することを目指し、2013年9月に生産を開始しました。

メキシコ、中国での生産力増強を図ります。

グローバル市場における競争力を高めるため、ジヤトコメキシコ社の第二工場を設立し、2014年夏から生産を開始します。また、ジヤトコ(広州)自動変速機有限公司においても生産能力を増強。当社の主力商品である「Jatco CVT7」「Jatco CVT8」を生産、また、「Jatco CVT8 HYBRID」の製造も開始する予定です。

ロシアに営業拠点を開設しました。

ロシア最大の自動車メーカー「アフトヴァズ社」※への商品供給開始に伴い、2012年6月にアフトヴァズ社本社のあるサマラ州トリヤッチに、さらに2013年6月には首都モスクワにも駐在事務所を開設。ジヤトコはロシア市場においても、さらなるビジネス拡大を目指します。

※アフトヴァズ社:1966年設立。2012年の生産台数は約61万台。

2012 年度
目標と実績

業務の継続的改善への取り組み

PDCA サイクルにもとづいた継続的な環境負荷軽減に取り組んでいます。

ジヤトコでは、年度ごとに環境負荷軽減のための取り組み事項を「環境目標」として掲げ、その実現を目指しています。
また、毎年度の取り組み結果を踏まえ、次年度以降の目標を設定することで、環境パフォーマンスの継続的改善を図っています。

環境目的	項目	目標	2012 年度実績	評価	2013 年度目標
環境マネジメントシステムの継続的改善	定期的レビュー実施	■定期審査受審 登録継続 ■内部環境監査実施 1 回 ■環境統括委員会 2 回 ■マネジメントレビュー 1 回	■定期審査受審 登録継続 ■内部環境監査実施 1回 ■環境統括委員会実施 2回 ■マネジメントレビュー 1回	○	■定期審査受審 登録継続 ■内部環境監査実施 1回 ■環境統括委員会実施 2回 ■マネジメントレビュー 1回
	内部環境監査員の養成	■必要人数	■4 名 養成完了	○	■必要人数
法規制の遵守·環境問題の未然防止	行政 · 官公庁からの指摘「ゼロ」	■指摘件数 0 件	■指摘件数 0 件	○	■指摘件数 0 件
	著しい環境側面の維持管理	■定期見直し件数 100%	■定期見直し件数 100%	○	■定期見直し件数 100%
	環境法関連教育の実施	■苦情発生件数 0 件	■苦情発生件数 2 件	×	■苦情発生件数 0 件
	環境事故防止	■B ランク事故 11 件	■B ランク事故 16 件	×	■Bランク事故 11 件
資源の有効活用	省エネルギーの推進 ■売上高当たりのエネルギー量(CO_2 換算)	■51.4トン -CO_2/ 億円	■51.1トン -CO_2/ 億円	○	■53.6トン -CO_2/ 億円
	廃棄物削減の推進 ■廃棄物総発生量の削減	■対 2011 年度比 2.0% 削減	■対 2011 年度比 2.2% 削減	○	■対 2012 年度比 2.2% 削減
	■再資源化率	■100% 維持	■100% 維持	○	■100% 維持
環境負荷低減に向けた技術開発	環境配慮設計 [環境保全、自動車燃費改善への貢献]	■個別(商品)課題の目標達成率 100%	■個別(商品)課題の目標達成率 130%	○	■個別(商品)課題の目標達成率 100%
	商品の環境負荷物質管理と削減	■商品の環境法規制への適合維持100%	■商品の環境法規制への適合維持100%	○	■商品の環境法規制への適合維持100%
地域、社会や自然との共生	外部への情報公開	■環境社会報告書の発行	■環境報告書の発行 12 年 12 月	○	■環境社会報告書の発行
	地域社会とのコミュニケーション	■各種イベントへの実施件数 8 件	■各種イベントへの実施件数10件	○	■各種イベントへの実施件数 8 件

評価 / 目標達成：○ 目標未達成：×

JATCO
ジヤトコ株式会社
環境方針

環境方針

環境とクルマが共生できる社会の実現

◆テクノロジー・・・エネルギー伝達効率の高いトランスミッションの開発
◆汚染予防・・・環境問題の未然防止及び法令の遵守
◆資源有効活用・・・資源、エネルギーの使用の最小化
◆継続的改善・・・環境マネジメントシステムの有効性向上

環境に配慮した商品と設備で、「環境とクルマが共生できる社会」の実現を目指します。

クルマの「環境負荷」低減にジヤトコの技術が活きる。

環境保全の緊急性が地球規模で議論される現在、人間の社会活動から生まれる環境負荷を低減するために、世界中でさまざまな取り組みが進められています。

人々の暮らしに馴染みの深い、「クルマ」の環境性能向上もその一つ。特に走りの洗練と燃費の向上に深くかかわる「トランスミッション」、なかでも「CVT（無段変速機）」の進化には、大きな期待が寄せられています。

私たちジヤトコはCVTの世界的なリーディングカンパニーとして、また小型～大型乗用車までをカバーする、唯一のCVTフルラインナップメーカーとして、各国の自動車メーカーに優れた環境性能の商品を供給することを通じ、クルマの環境負荷低減に地球規模で貢献しています。

グローバルな事業活動においても環境に配慮するために。

世界の自動車メーカーに安定した商品供給を行うために、ジヤトコでは生産拠点をグローバルに拡大中です。これらの生産拠点では環境への負荷を最小限に抑えるために、日本の生産拠点と同様の環境保全策を展開しながら、各拠点独自のアイデアも積極的に試行しています。また、環境マネジメント規格「ISO14001」についても、既に取得済みのジヤトコ メキシコ社に続き、他の生産拠点においても取得の準備を進めています。

環境にやさしい「トランスミッション」という商品を、環境に配慮しながら生産するために。これからも自然への影響を抑えた生産のスタイルを、世界の拠点にも展開してまいります。

環境とクルマのこれからに、ジヤトコのできること。

市民や社会の環境保全に対する意識が高まるなか、ユーザーがクルマを選ぶ上で、「環境」「燃費」といった要素は重要な条件となっています。より環境への負荷が小さく、燃費の良い、クリーンなクルマ。環境性能と走行性能を両立した、理想のクルマの実現に向けて、私たちジヤトコは挑戦を続けています。常に「環境」「燃費」について研究を重ねてきたトランスミッションメーカーとして長年培った技術や経験は、すでに「Jatco CVT7」「Jatco CVT8」等の商品として形となりました。また、今後ハイブリッドカー（HEV）、電気自動車（EV）等においても革新的な技術を開発することで、クルマ社会の未来に貢献してまいります。

「環境とクルマが共生できる社会」を目指した私たちの「モノづくり」の挑戦は、これからもとどまることはありません。

マテリアルバランス

ジヤトコの事業活動にともなう、さまざまな物質の排出量の把握に努めています

ジヤトコの事業活動の過程からは、さまざまな廃棄物が発生しています。
循環型社会形成を目指し、ジヤトコでは資源の適切な使用と排出量低減に取り組んでいます。

INPUT

水資源

工業用水 2,770 千 m³
上水 105,265 千 m³
地下水 695 千 m³

エネルギー

電力 639,065 千 kWh

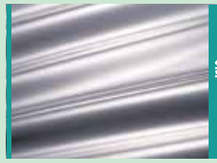
天然ガス 12,977 千 m³
LPG 6,228 トン

原材料

灯油 14,689kL

その他 249kL

アルミ材 43 千トン



鋼材・鋼板 106 千トン

※写真はイメージです

Jatco

オフィス

研究開発

調達

生産工場（生産プロセス）

材料

機械加工

サブ組立

メイン組立

ファイナルテスト

詳しくは 生産プロセスの取り組み P.23

詳しくは 商品の取り組み P.13

詳しくは サプライヤー（取引先）とともに P.33

素材から組立まで一貫した効率的で高品質な生産を行っています。
また、生産プロセスの各工程においても、環境負荷軽減のための細やかな取り組みを実施しています。

詳しくは 生産プロセスの取り組み P.19

商品輸送

・トラック ・船舶
・飛行機 ・鉄道

詳しくは 物流の取り組み P.25

納品先

全世界の自動車メーカー組立工場

ユーザー

OUTPUT

CO_2 363,028 トン -CO_2

排出ガス（生産工程） 1,488,702千Nm³

排水 3,513千m³

直接埋立 廃棄物 171.46トン

※写真はイメージです

※表記の数値は、2012 年度のグローバルのデータです。

環境マネジメントシステム

環境負荷を把握し管理する体制を構築しています

各地区にサイト責任者を配置し地区ごとのマネジメントを推進。
環境規格分科会を設け、前者の中長期的な環境戦略を検討しています。

ジャトコの環境マネジメント

ジャトコは、本社と日本国内の各生産拠点でISO14001認証を取得しています。

環境マネジメントシステム（EMS）推進体制としては、環境管理責任者1名、サイト責任者12名を任命し、環境管理責任者の責任と権限のもと、各生産拠点・部門ごとにEMSの推進を、行っています。

また、ジャトコ全体のEMS推進については、環境管理責任者、サイト責任者で構成される全社環境委員会で、総合的に審議と評価を行い、フォローする体制をとっています。

このように、複数の生産拠点と機能で全社共通のEMSを運用することで企業としてのベクトルを一元化し、協力に推進していることが、ジャトコのEMSの大きな特徴です。一方で各生産拠点ごとに地区環境委員会を実施することで、その地域の特長をを生かした環境活動を実施しています。

国内グループ会社では、ジャトコエンジニアリングが、独自にISO14001認証を取得しています。

海外拠点では、ジャトコメキシコが、2011年にISO14001認証を、取得していますし、ジャトコ広州が、2013年度中にISO14001認証取得のためEMSの構築を進めています。

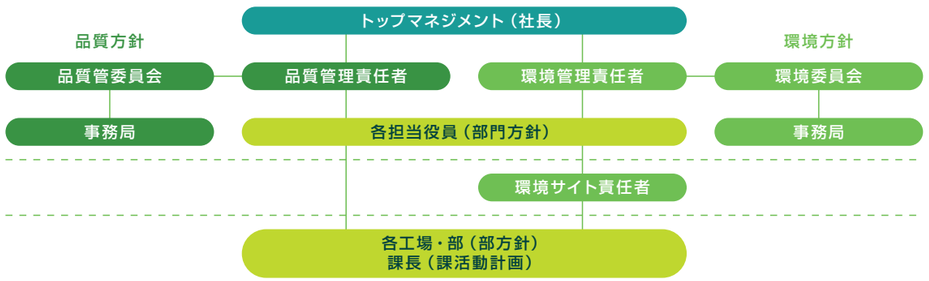
ジャトコの環境方針は、「環境とクルマが共生できる社会の実現」であり、環境方針に沿って、

- テクノロジー：伝達効率のよいT/Mの開発
- 汚染予防：法令遵守、環境事故の予防
- 資源有効活用：省エネの推進、産廃の削減
- 継続的改善：EMSの継続的改善

の、4項目を柱とした環境活動を通じ、環境対応を積極的に進めています。

品質・環境マネジメントの統合

ジャトコでは、品質と環境のマネジメントシステムの統合を実施しました。



JATCO Voice

マネジメントシステムの変更

ジャトコのマネジメントシステムは、環境・品質のふたつのマネジメントシステムを統合して、2年目になります。環境と品質だと、マネジメントの手法がかなり違うと、思われる方が多いと思いますが、実は共通点が多いのです。ジャトコは、ISO14001（環境）と、ISO/TS16949（品質）の認証を受けていますが、どちらもプロセス重視、資源の有効化活用、継続的改善など要求事項が似ているため、同じマネジメントで出来ることが多いのです。

環境方針も、「テクノロジー」、「汚染予防」、「資源の有効活用」、「継続的改善」と、4本柱にして、わかりやすくしています。グローバル展開する企業として、今年は基準書のグローバル化を行い、フロー図を中心にした、わかりやすい基準書に変更しています。これにより、世界各地のジャトコの仲間たちが、同じ目線に立って仕事をすることが出来るようになりました。
ジャトコは、今後も進化、改善を続けて行きますので、ご期待ください。

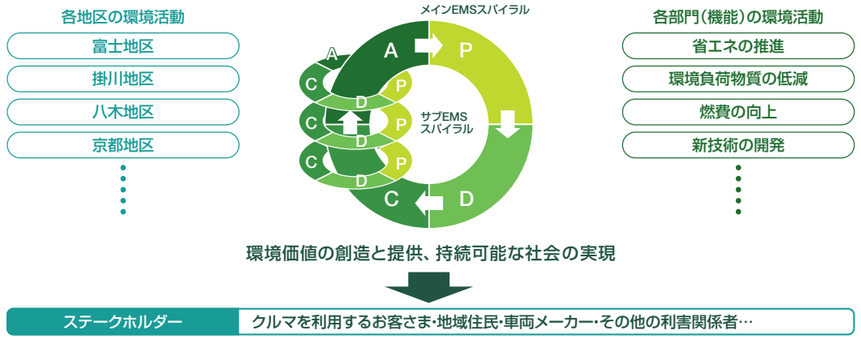
環境エネルギー担当
工務部　工務課
高垣 基之

環境活動における基本的な考え方

ジャトコでは、地区別に環境委員会を設置し、その地域にあった環境活動を実施しています。

ジャトコ全体のPDCAサイクル（メインEMSスパイラル）と地区、部門（機能）ごとのPDCAサイクル（サブEMSスパイラル）という2種類のPDCAスパイラルを相互に連動させ、各取組の方向性を統一。より効果的な活動が出来るよう継続的な改善を行うことで、ステークホルダーへの環境価値の創造・提供を目指しています。またこれが持続可能は社会の実現に向けジャトコが果たすべき役割だと考えています。

■ジャトコの環境活動概念図



ジャトコの環境企画分科会

ジャトコでは、中長期の環境戦略を検討する組織として「環境企画分科会」を2008年に組織しました。これは、地区ごとの環境マネジメントを行う「EMS推進体制」に対し、社会情勢や上位方針などを受け、ジャトコが取るべき環境の中長期戦略を検討・推進するための組織です。

分科会の中には商品開発や生産、調達などの事業活動ごとに8つの小分科会を設け、機能軸ごとの環境マネジメントを展開。ジャトコ全体を俯瞰した視点から、社内を横断した企画・マネジメントの実施を目指します。中でも環境企画分科会では、ジャトコが環境最重要課題としている「地球温暖化防止」、「環境保護」、「資源の有効活用」の3つの分野での取り組みを強化します。また、海外拠点での環境活動の企画・マネジメントなども連携しながら推進します。

■環境中期戦略 検討・推進の概念図

商品の取り組み

より環境負荷を抑えた商品を目指して、開発を続けています

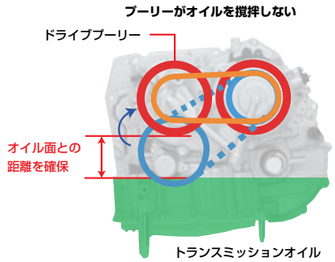
さらなる低燃費化により、環境負荷低減を意識した商品づくりに取り組んでいます。

CVT の環境性能の向上を目指しています

世界唯一のCVTフルラインナップメーカー

CO_2排出による地球環境の変化を抑制するため、自動車の燃費向上は近年の最重要課題です。ジヤトコではこの課題を解決するためにCVTに早くから着目し、度重なる改良により軽自動車から3.5リッタークラスまでをカバーするCVTのフルラインナップ化を実現しました。2012年度には約340万台のCVTを生産し、市場には既に2,000万台以上のジヤトコ製CVT搭載車を送り出しています。

■ フリクション低減によって伝達効率・燃費を向上

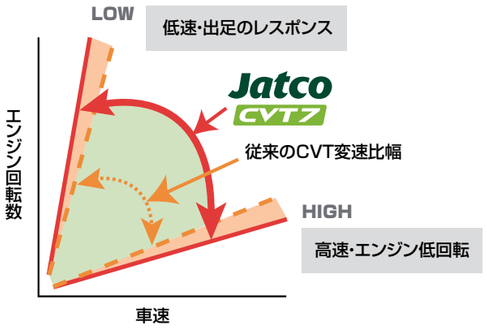


さらなる低燃費化を目指した Jatco CVT7

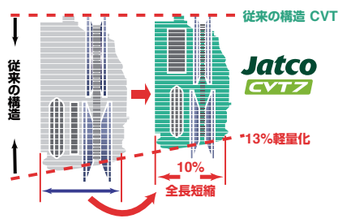
ジヤトコでは、従来とは全く異なる発想から、世界最大級の変速比幅を持つJatco CVT7を開発しました。このCVTでは環境性能の飛躍的向上を狙い、新構造の副変速機システム採用による変速比幅の拡大や、フリクション低減技術による燃費の向上とともに走りの良さを実現しています。

＜Jatco CVT7 の特徴＞

■ 世界最大級の変速比幅を実現し、発進・加速性能が向上



■ プーリーの小型化により、全体の小型軽量化を実現



アイドルストップ

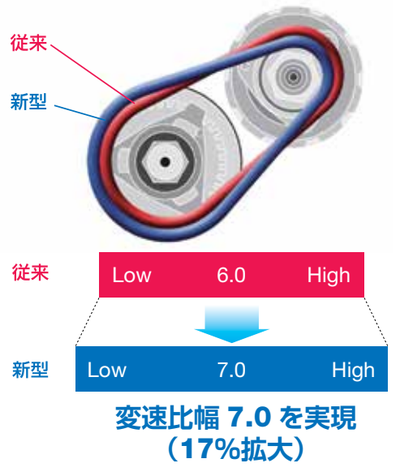
停車時にエンジンを停止しCO_2 の排出量を削減するアイドルストップ車においては、停車時に補助ポンプでトランスミッション油圧を確保し再始動をスムーズにしたり、坂道発進時にクラッチを締結させ、ずり下がりを防ぐといった対策を講じています。

環境性能と力強い走りを両立した Jatco CVT8

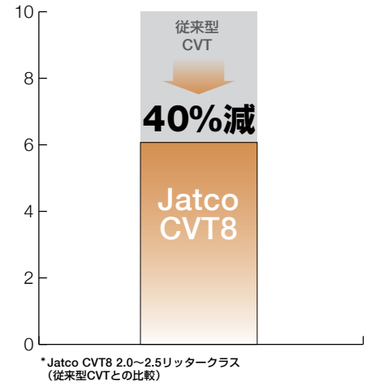
ジヤトコでは、2.0～3.5リッターの幅広いエンジンに対応する「Jatco　CVT8」を開発しました。このCVTでは、CVTの滑らかな走りはそのままに、コンパクトでありながらクラストップの変速比幅と、細部にわたる徹底的な効率改善で大幅なフリクション低減を実現し、環境性能の飛躍的向上と力強い走りの両立を可能にしました。

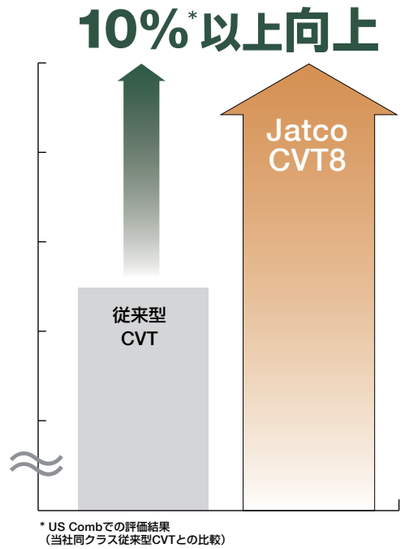
＜Jatco CVT8 の特徴＞

■ 変速比幅を 2.0 ～ 2.5 リッタークラスでは世界トップレベルの 7.0 まで拡大し、力強い発進加速と高速走行時の燃費、静粛性向上を実現



■ 当社同クラスCVTに対しフリクションを約40%低減することより伝達効率、燃費の向上を実現





JATCO Voice

CO_2 削減と様々な市場ニーズに応える商品企画

市場における自動車の使われ方、法規制に着目し、実際に自動車を運転するお客さまの声、各カーメーカーの声などに耳を傾け、そのニーズに応えるため、より燃費性能が良く、CO_2排出量を少なくできるトランスミッションを企画・開発・販売し、より多くのお客さまに環境に優しいトランスミッションとして選ばれ、使用して頂くことで環境保護に貢献できると考えております。

商品企画担当
商品市場戦略室
篠崎 隼

商品の取り組み

より環境負荷を抑えた商品を目指して、開発を続けています

さらなる低燃費化により、環境負荷低減を意識した商品づくりに取り組んでいます。

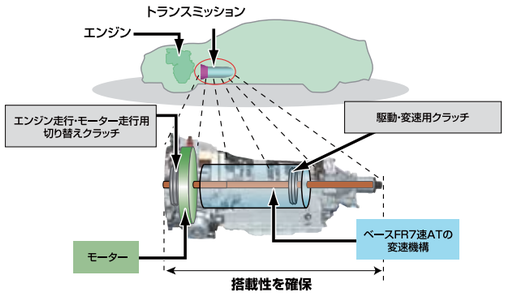
市場ニーズに応えた専用トランスミッション

独自システムを採用したハイブリッド　トランスミッション

拡大するハイブリッド車市場でのニーズに応え、FF車用、及び大型FR車用ハイブリッドユニットを開発しました。

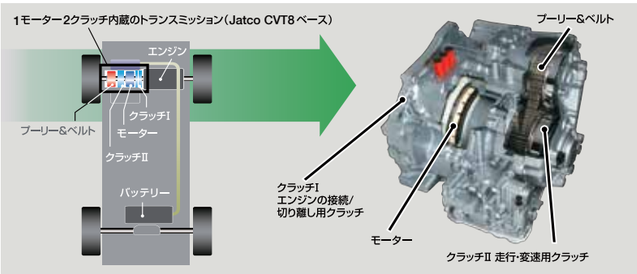
＜Jatco CVT8 HYBRID（FF 車用 ハイブリッドトランスミッション）＞

- 独自の１モーター２クラッチ式システムの採用により、市街地走行時の燃費を向上
- Jatco CVT8 の技術により、高速走行時の燃費、静粛性を向上
- CVT とモーターを組み合わせることで、すばやいレスポンスとダイレクトフィールを実現
- トルクコンバーターをクラッチとモーターに置き換えて軽量・小型化し、搭載性を確保



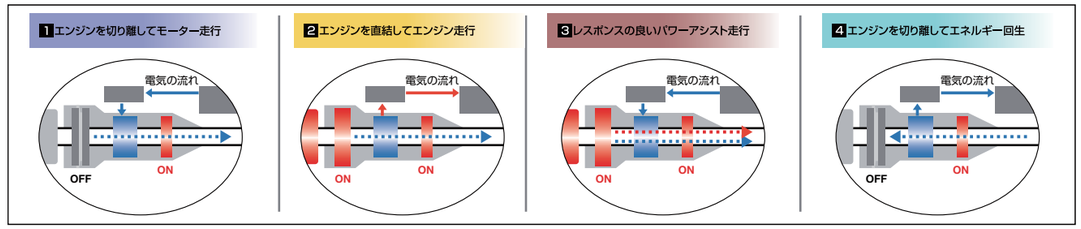
＜FR 車用 ハイブリッドトランスミッション＞

- 独自の１モーター２クラッチシステムの採用により、市街地走行時の燃費を向上
- AT 開発で培ったクラッチシステムを高度に制御し、モーター走行時の伝達効率を向上
- トルクコンバーターをクラッチとモーターに置き換えて小型軽量化し、搭載性を確保



トランスミッションの作動パターン

駆動用・回生用を兼ねる1つのモーターと2つのクラッチを採用することで、以下の作動を実現しています。



ステップ AT での燃費性能向上

多段化・ギヤ比のワイドレンジ化

固定段で構成されるステップATでは、燃費性能の向上に有効な多段化・ワイドレンジ化を進めています。FR車用7速ATでは、ギヤ比をワイドレンジ化し、発進から加速、高速領域までの走りのスムーズさと燃費性能の高さを両立させました。

さらなる CO_2 排出削減を目指します

今後もさらなるCO_2の排出削減に向け、トランスミッションの技術開発に積極的に取り組んでいきます。

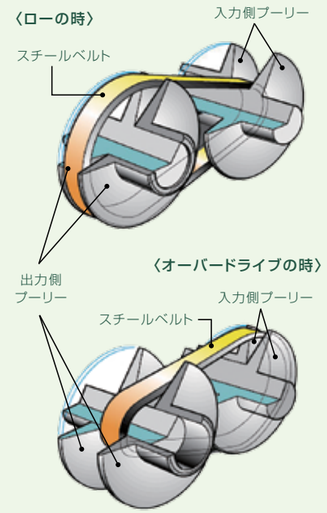
- CVT の伝達効率改善、ワイドレンジ化、軽量化
- ステップ AT の多段化、ワイドレンジ化、軽量化
- 制御技術の改良（ロックアップ領域のさらなる拡大、ニュートラルアイドル制御・アイドルストップ制御の採用拡大）
- ハイブリッド車用にトランスミッションを最適化

CVTとは

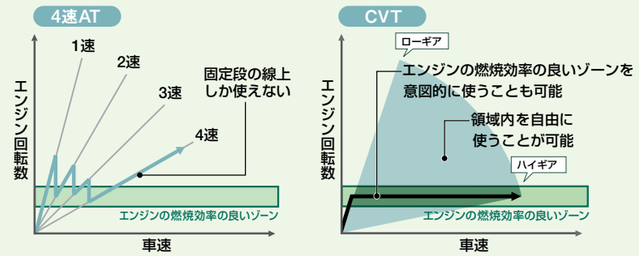
CVTの特性

CVTは、無段のメリットを活かし、さまざまなシチュエーションで最適なギヤ比を選ぶことができるため、常に走行状態にマッチし、少ない燃料消費で効率よくクルマを走らせることが可能です。

■CVTのしくみ

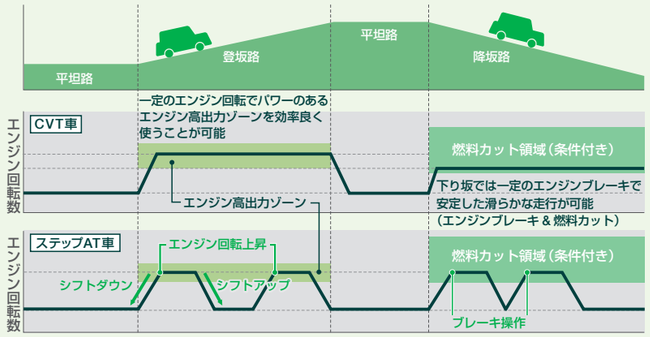


■4ATとCVTの効率領域比較



自動車との統合制御

走行状態に応じた最適な変速制御を容易に行うことができるCVTは、燃料消費を抑えた走行にもフレキシブルな対応が可能です。



商品の取り組み

環境負荷物質の削減と商品の「3R」を推進しています

開発段階から環境負荷物質を削減し、リサイクル率・リユース率向上に貢献しています。

環境負荷物質の徹底管理と削減

社内技術標準規格による化学物質管理

トランスミッション内の環境負荷物質は、社内技術標準規格「JES M9001」で管理しています。

「JES M9001」は日米欧の自動車業界共通の管理化学物質リスト"GADSL"※1と、日本の化学物質規制"化審法"※2を軸に関係各国法規制を追加し、約150物質群(2700物質)の使用を制限しています。ジャトコでは1回/年以上の適宜見直しにより、世界の環境法規制を先取りした環境負荷物質の削減管理を進めています。

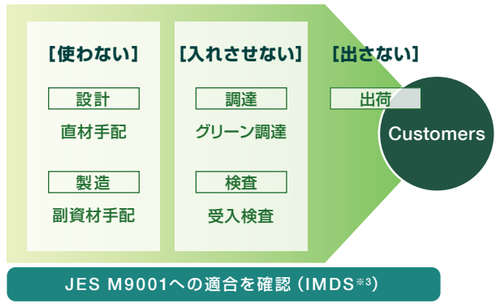
社内・外への環境啓蒙活動

環境負荷物質の管理と削減はサプライヤーを交えたサプライチェーンにおける重要な課題であり、さらなる環境への意識向上のため、"グリーン調達・環境負荷低減への取り組み"の必要性を社内外へ啓蒙する場(「クオリティーフォーラム」等)を設定していきます。

環境負荷物質削減の取り組み

削減活動は、JES M9001制限物質を、設計・製造部門においては"使わない"、調達・検査部門では"入れさせない"、生産・出荷部門では"出さない"ことを各部門の責務として捉え推進しています。

■環境負荷物質削減活動のポイント



■環境負荷物質削減状況

規制化学物質	状況
鉛	廃止済み(適用除外除く)
-鉛はんだ(基盤)	削減活動中
6価クロム	廃止済み
水銀	廃止済み
カドミウム	廃止済み
アスベスト	廃止済み
認可対象物質	削減活動中

JATCO Voice

わかりやすい環境法規対応に変えます。

EU-REACH規則はじめ、世界各国の環境法規やCSR※4による化学物質規制は年々強化されています。私たちもIMDSによる管理や社内への情報発信により、商品に含まれる環境負荷物質の監視や削減活動を進めていますが、「環境法規は難しい」「取組み方がよくわからない」と言う声が多くあります。既存の資料や、関係基準、社内情報サイトをひと工夫して誰もが参照しやすくし、知りたい情報を容易に特定できるようにすることで、「わかりやすい環境法規対応」に意識を変えていきたい。

IMDS担当
R&Dマネージメント部
佐塚 智彦

用語解説

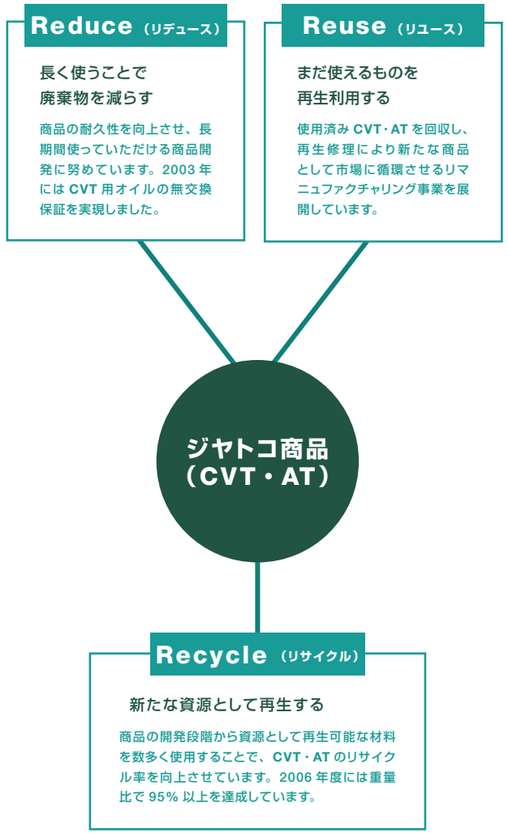
※1 Global Automotive Declarable Substance Listのこと　※2 化学物質の審査および製造などの規制に関する法律
※3 International Material Data Systemのこと　※4 Customer Specific Requirements　顧客固有要求事項のこと

廃棄していた資源の再利用を進めています

商品の「3R」への取り組み

3Rとは、循環型社会を構築するためのキーワードとなるReduce(リデュース)、Reuse(リユース)、Recycle(リサイクル)という3つの英単語の頭文字を表したものです。この3Rによるジャトコの取り組みは下図のとおりです。

■商品の「3R」



リマニュファクチャリング体制

ジャトコでは、CVT・ATを市場から回収し、分解・修理・品質保証を行い再び市場に供給するリマニュファクチャリング活動(リマン事業)に、1989年から取り組んでいます。この事業により、CVT・AT生産に必要な資源の循環活用を図ることで、地球環境の保全に貢献しています。

リマン事業拠点を日本、メキシコに設けるとともに、中国では現地修理会社と技術援助契約を結んで市場回収品の修理を委託しています。さらに今後は、環境保護のため回収した部品の再利用率向上に取り組んでいきます。

■リマン事業のプロセス

生産プロセスの取り組み

「世界No.1のモノづくり」を目指し、技術・設備の改善を進めています

生産時の環境負荷低減と効率アップの両立を目指し、省エネルギー・省資源型設備の導入を進めるとともに、化学物質の適正管理や廃棄物削減を進めています。

世界 No.1 のモノづくりを目指しています

JEPS（JATCO Excellent Production System）

ジヤトコは、お客さまの変化に限りなく早く対応し、高品質（Quality）、低コスト（Cost）、納期短縮（Delivery）における世界No.1のモノづくりを目指し、ジヤトコ独自の生産方式「JEPS」を構築・運用しています。このJEPSは、素材仕入から加工、そして組立から出荷に至る一連の工程を1本のラインのように同じスピード・同じ順序で稼動させ、タイムリーな生産・運搬を行うことで一切の無駄を排除するシステムです。

■JEPS活動概念図

JEPSの狙い

JEPSは、サプライチェーン全体で「2つの限りない」を狙いとしています。

（1）お客さまへの「限りない」同期

Q:品質の同期　要求する品質を作りこむ
C:コストの同期　お客さまにより安く提供する
D:時間の同期　生産リードタイムを短縮し、限りなくお客さまに近づける

これら3つの同期を追求します。

（2）課題の「限りない」顕在化と改革

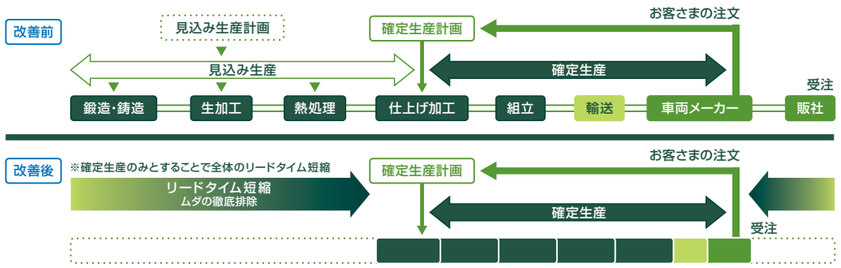
世界一のモノづくりのありたい姿と現状のギャップを認識したうえで、これまで表に出しにくかった悪さを見える化。改善・改革を繰り返すことでモノづくりの仕組みを継続的にレベルアップさせています。

JEPSイノベーション

2つの「限りない」の追求のため、ジヤトコのモノづくり革新を推進しておりますが、2012年度は、運営の効率を高めるため、業務の流れを分かりやすくを念頭に、共通するマネジメントと固有の仕組みをシンプル化させ「環境マネジメントシステム」と「品質マネジメントシステム」を統合いたしました。

構築されたシステムを土台に置き、ジヤトコのモノづくりをJEPSを基軸にして、海外拠点を含めたグローバルサプライチェーン全体で展開しております。商品と情報の流れの全体最適化を進め、モノづくりプロセスの有効性と効率を追求し、省エネルギー・省資源化を推進し、クルマ文化と社会に貢献します。

■ジヤトコのモノづくり



生産工程の効率化を追求した省エネルギー・省資源活動に取り組んでいます

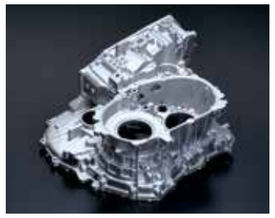
環境対応生産技術

ジヤトコでは原材料購入後、粗材工程、加工工程、組立工程と完成ユニットまでの一貫生産を行っており、生産技術部門ではそれぞれの工程で新商品計画時、新技術開発時に地球資源の有限性を認識したアプローチを行っています。特に新技術の積極的導入による①地球温暖化防止（CO_2削減）や②環境負荷低減（有害物質管理）、遊休設備の活用などによる③資源の有効活用（リサイクル）を重点課題として取り組むため、環境負荷の低い高効率な工法の開発、工程短縮を狙った革新技術の開発、省エネルギー・省資源型設備の導入、転換などを進めています。

小型・軽量箱物部品採用によるCO_2削減

2012 年度の CO_2 排出量	約 68 トン削減

2012年度新たに発表した次世代CVTでは、薄肉化の箱物部品を採用しています。同機種の開発においては、開発当初より製品開発部門・生産技術部門共同での「生産設計」を強力に推し進め、最適形状の採用および生産限界で決まる一般肉厚部を薄肉化することで、従来の同クラスCVTに比べ5％の軽量化を実現しました。これにより当該部品生産時のCO_2排出量も大幅に低減されることになり年間約68トンの排出量削減が可能になりました。



薄肉化された
トランスミッションケース

生産設計による加工・熱処理ラインのCO_2削減

2012 年度の CO_2 排出量	約 3,260 トン削減

生産技術部門が、開発当初から商品の設計に関わる「生産設計」を進めた副変速機付小型CVTは、2009年に立ち上がり、現在、大幅な増産をしています。生産設計により、プーリーの加工ラインでは加工箇所を極力少なくすることで設備台数・サイクルタイムを大幅に削減したほか、熱処理ラインでは必要なスペックを絞り込みサイクルタイムを大幅に削減しています。その結果、CO_2の排出量を年間約3,260トン削減できました。

■生産設計によるCO_2排出量の削減

加工ライン	従来ユニット用ライン	新ユニット用ライン	
設備台数	49 台×3.5 モジュール	27 台×3.5 モジュール	▲ 43%
年間 CO_2 排出量	2,919t/ 年	1,740t/ 年	▲ 40%

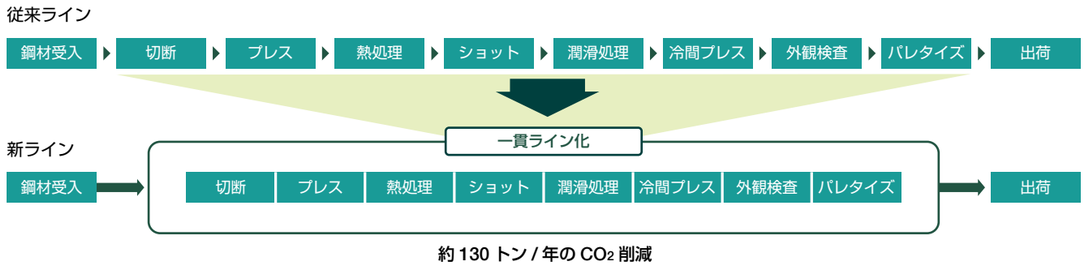
熱処理ライン	従来ユニット用ライン	新ユニット用ライン	
サイクルタイム	100%	66.6%	▲ 33%
年間 CO_2 排出量	6,244t/ 年	4,164t/ 年	▲ 33%

鍛造工程の残熱利用によるCO_2削減

2012 年度の CO_2 排出量	約 130 トン削減

ジヤトコでは、従来、熱間鍛造後に部品をいったん冷却し、再度加熱して粗材熱処理を実施する工程を採用していました。しかし、現在、熱間鍛造後の残熱を利用する熱処理方式（自熱焼鈍化）への変更を進めています。この変更により、別ラインで熱処理していた工程を一貫ライン化することが可能となり、ライン間の物流も省略できました。また、年間で約130トンのCO_2削減を図ることができました。

■鍛造工程の一貫ライン化



生産プロセスの取り組み

より環境負荷の低い生産ラインの実現を目指し、生産技術の改善を進めています

商品自体への工夫はもちろん、生産時の取り組みによって
全社的な省エネルギー・省資源活動を展開しています。

生産工程・工法を変革することで、総合的な環境負荷低減に取り組んでいます

ファイナルテスター・バルブテスター削減によるCO_2削減

2012年度のCO_2排出量	約130トン削減

生産技術部門が開発当初から商品の設計に関わる「生産設計」を進めることにより、商品性能と生産性の向上を両立させる活動を積極的に行っています。この成果として、商品性能を部品単体精度に落とし込むことと、組立精度確認のフロントローディング（工程内化）により組立工程における商品性能試験項目が削減され、ファイナルテスター・コントロールバルブテスターのサイクルタイムを短縮できました。これにより、テスター台数が削減されCO_2の排出を年間約130トン削減できました。

油圧圧入からサーボ（電動）圧入による環境改善

従来、組立工程における圧入は主に油圧を用いて行っていました。油圧では油圧発生装置でポンプを常時回していることにより消費電力が多く、圧入動作時以外での騒音・発熱も大きいことから、サーボを用いた電動圧入への変更を進めています。サーボは油圧圧入のようにポンプを常時駆動しないため、消費電力・騒音・発熱を抑えることが可能で、環境改善に貢献することができました。

次期CVTユニットへのリードタイム・CO_2排出削減活動

次期CVTユニットの生産工程・工法は、これまでの工程・工法をさらに見直し、生産リードタイムを大幅に短縮することによりCO_2の排出を抑制することに取り組んでいます。

生産技術の扱うすべての部品について、チャレンジアイテムを提案し、開発部門・生産部門の連携により高い目標に取り組んでいます。

型直彫り化による環境負荷の軽減

2012年度のCO_2排出量	約70トン削減

ジャトコで行っているダイキャストや鍛造で使用している型は形状が複雑なため、従来は放電加工を用いて作製していました。この方法は電極材料であるグラファイトや放電加工によって生ずるスラッジが産業廃棄物にもなることから、現在はマシニングセンターで直接加工する直彫り化を推進しています。マシニングセンター加工では、加工プログラムや切削条件の改善による加工時間短縮でCO_2の排出量を年間約70トン削減でき、産業廃棄物も大幅に削減できました。

直彫り加工で製作したダイキャスト

革新的な技術開発を進めています

生産技術部門では、2050年度までに、温室効果ガス50%削減に向けた取り組みとして、ダイキャスト時の溶湯購入・歯車部品のシェービング工程廃止・次世代真空浸炭炉の開発・薄肉ダイキャストや材料変更によるユニット軽量化等、さらなる技術のブレークスルーにチャレンジしています。

また、技術開発は生産ラインだけでなく、部品・ユニットの革新を行う要素技術開発活動も行っています。それらの活動から、次期ユニットや高効率な次世代ユニットを実現していきます。生産部門から発信した商品開発によっても、環境負荷低減へ貢献します。

JATCO Voice　鋳造工程における環境負荷低減の新たな取り組み

鋳造工程では金型と部品の焼き付きを防止するため、一般的に水溶性の離型剤を使用しています。
私は、その離型材を油性に変更する技術開発アイテムにチャレンジしています。
油性の離型剤は様々なメリットがあります。
・塗布後のエアーブローによる水分除去が不要になり、サイクルアップが図れます。
・エアーブロー廃止による、省エネ、騒音低下もできます。
・水を使わないことから製品中へのガス量が減り、品質向上が狙えます。
・また、離型剤の塗布量を150分の1程度に抑えることができ、金型表面温度の低下を抑え、金型寿命も延長できます。
業界の慣例や先入観にとらわれず、新たなチャレンジに取り組むことで、サイクル短縮、出来高向上が達成できています。その結果、電気使用量、CO_2排出量の削減もできています。今後は、油性の離型剤をグローバル展開して、より大きな効果をあげてゆきます。

生産技術担当
部品技術部　第一部品技術課
近藤 崇夫

設備における省エネルギー活動を行っています

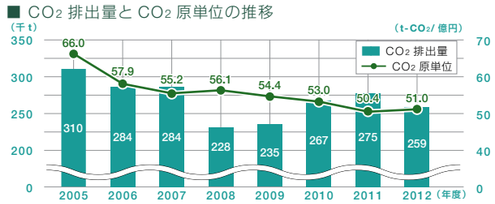
CO_2削減の目標

2012年度のCO_2排出量	約259,101トン

ジャトコでは、設備の新規導入時の事前評価を行っています。

稼動中の設備についても、より環境負荷の低い省エネルギー型・省資源型への転換を進めています。今後は技術的な対応を積極的に推し進め、工場設備全体の環境負荷低減を実現します。ジャトコの日本国内事業活動にともなう2012年度のCO_2排出量は約259,101トンで、CO_2原単位※1は約50トン/億円、2005年度を基準として22.6%の向上が図れました。2020年度の最終目標は、CO_2原単位46.2トン/億円達成を目指しております。

■ CO_2 排出量と CO_2 原単位の推移



全員参加による省エネルギー活動

2012年度のCO_2排出量	約14,586トン削減

ジャトコでは、事業所ごとにCO_2の削減目標を設けているため、環境担当者のみならず、多くの社員が省エネルギーに関するアイディアを出し合い、それを実施しています。また、実施されたアイディアで、特に有効だったものについては、社内の「環境ホームページ」（詳しくは、23ページ参照）等で紹介するなど、共有化とモチベーション向上を図っています。2012年度に実施した省エネルギーアイディアは、約14,586トンのCO_2削減に相当します。

各工場における照明改善によるCO_2削減

2012年度のCO_2排出量	約117トン削減

照明改善によるCO_2削減は省エネルギー主要アイテムの一つでもあり計画的に進めています。照明は、典型的な「ちりも積もれば山となる」エネルギーで、全社、工場においての消費割合は決して少なくありません。そこで、工場単位で、主に天井照明の改善を実施。照度環境を確保したうえで、省エネ型器具変更、間引き、消灯を実施しました。その結果、2012年度の実績として電力量で314千kwh、CO_2排出量では117t-CO_2の削減につながりました。

異業種コラボレーション

ジャトコでは地球環境保全に向けた新たな取り組みとして、異業種企業との連携を積極的に進めています。東京電力（株）とは、2005年度から共同でNAS電池設備※2を導入しています。NASを電力使用量の少ない夜間に充電し、負荷の高い昼間にその電力を使用することで、発電所の余分な運転を抑制し、効率的な電力利用を実現します。

また、中部電力（株）とは、2007年度からアルミ溶解炉の燃焼状態をリアルタイムで監視し、常に最適な状態を維持するシステムを共同で導入しました。これにより、使用エネルギーの削減につなげており、社内への水平展開を進めています。

NAS電池設備

熱監視システム

JATCO Voice　エネルギー原低に繋がる資料提供を

この夏は酷暑でした。最高気温を更新し、猛暑日の日数も更新し、熱中症で病院に搬送というニュースが連日ながれました。
そんな中我が家では、年頃の娘(二十歳)も含め家族3人＋猫2匹で同じ部屋に寝てエアコンの稼動を1台で済ませました。扇風機も併用し28℃設定でしのぎきりました。
また、普段でも基本はリビングに家族全員いて、エアコンの稼動を1台で済ませました。エネルギーは少なく、経済は大きく行きたいですね。
JATCOもグローバルでは拡大していきますが、国内生産は縮小していきます。それにあった門構えにリビルトし、省エネにもつなげて行きます。

環境エネルギー担当
工務部　工務課
神宮 匡彦

用語解説

※1 CO_2 原単位：売上高（億円）あたりの CO_2 排出量のこと
※2 NAS 電池：液体ナトリウムと液体硫黄、特殊セラミックを利用した蓄電池

生産プロセスの取り組み

さまざまなシーンで、環境負荷低減の試みを進めています

自然のエネルギーを利用した省エネルギー策の展開と、
廃棄物削減の両面から環境負荷低減を目指しています。

さまざまな環境活動を行っています

太陽光発電システム導入と屋上緑化

2012 年度の CO_2 排出量	約 5.0 トン削減

本社の屋上に再生可能エネルギー利用設備である太陽光発電システム（10キロワット）を設置し、発電電力を空調設備の電力として利用しています。このシステム導入により、CO_2を年間約5.0トン削減できました。また、植物による建物温度低下特性を利用した屋上緑化を実施し、夏場の空調設備による電力の削減につなげています。

太陽光発電システム

屋上緑化

J-ESCO 活動

ジャトコでは、J-ESCO（JATCO Energy service Company）という省エネルギー診断チームによる省エネルギーを推進しています。このチームは、工場設備の稼動状況やエネルギーロスを調査し、使用部署に改善の提案・支援を実施しています。これにより、社内のCO_2排出量削減に貢献しています。また、J-ESCOのメンバーは、ジャトコ プラントテックにおける省エネのエキスパート（5人）を選任し、省エネ知識の豊富なメンバーが診断・支援をすることで、省エネノウハウの浸透も目指しています。

これまでは、主に、工場の省エネ支援を実施してきましたが、現在はオフィスのエネルギー使用状況の把握も推進しています。

オフィスでの省エネルギー活動

クールビズとウォームビズの推進

オフィスでは省エネルギー活動の一環として、6～9月には軽装の奨励とオフィスの空調設定温度を上げるクールビズを、12～3月には「寒い時は着る」ことで空調設定温度を下げるウォームビズを推進しています。

電力使用量の見える化で、自発的な節電活動を推進

節電活動を促進させるため、電力使用量の見える化をすべく、前日の電力使用量を社内に公開する活動を、開始しました。社員全員が各地区の電力使用量を、簡単に確認することができるため、省エネの目安として活用しています。これにより、一人ひとりの自発的な節電活動推進を目指しています。

環境ホームページによる社員の啓蒙活動

社員の環境意識向上を目的とし、環境専門のホームページを社内で設置しています。ここでは、社内外の環境行事への参加を呼びかけるとともに、ジャトコ独自のeco検定やエコドライブ検定といった、気軽に環境問題について学ぶことのできるコンテンツを掲載しています。

また、省エネルギー意識向上のために、「省エネ自慢2012」と題して、社内で実施した省エネルギー事例を掲載。ノウハウの発掘と水平展開を進めています。

廃棄物の分別をきめ、誰もがルールを確認できるようにしています

社内では廃棄物を減らすために、「削減できないか、再利用できないか、他に使えないか」を考え工夫して減らす活動を行っています。しかし、どうしても捨てざるを得ないものは再資源化しやすいように分別基準をきめて廃棄しています。

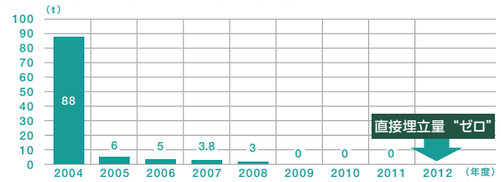
廃棄物削減活動を行っています

ゼロエミッション活動の実施

直接埋立廃棄物量	ゼロ 達成

環境マネジメントシステム（ISO14001）の廃棄物削減推進管理に「廃棄物のゼロエミッション」を組み込み、その達成に向けた取り組みを推進しています。その結果、日本国内の事業所では直接埋立廃棄物量を“ゼロ”にすることができました。

■直接埋立廃棄物量の推移（日本国内）



再資源化率100％を達成

再資源化率	100％ 達成

ジャトコではゼロエミッションの一環として廃棄物等の焼却処分・埋立処分をやめ、サーマルリサイクル（燃料化）やマテリアルリサイクル（再生利用）等を進めています。また、廃棄物を有効な資源として活用できるよう、分別を徹底しています。この活動により、日本国内の事業所では再資源化率100％を達成することができました。

全員参加による廃棄物削減活動

2012 年度の廃棄物総量	14％ 削減（対2005年比）

各事業所では、廃棄物総量削減の目標を立てるとともに、それに向け、各職場が実施した取り組みのアイデアを登録することで、廃棄物削減情報の共有化とモチベーションの向上を図っています。

生産工程からの化学物質管理活動

揮発性有機化合物の管理

2012 年度の VOC 排出量	約99％ 削減（2000年度比）

揮発性有機化合物（VOC）対策は、（社）日本自動車部品工業会（JAPIA）の行動計画にもとづき、2010年度までに全VOC排出量を30％削減（2000年度比）することを目標とした活動を実施しました。その結果、2006年度までに98％削減することができ、2010年度には99％を達成しました。

土壌・地下水汚染の対策

土壌・地下水汚染対策として、有機塩素系溶剤の使用を全廃し、現在は過去の有機塩素系溶剤の使用履歴と環境への影響をモニタリングしています。

有害大気汚染3物質の削減

2012 年度の 有害大気汚染 3 物質排出量	100％ 削減維持 （2000年度比）

有害大気汚染3物質※1の排出量については、2006年度に100％削減を達成し、2012年度も維持しています。

PRTR対象物質の管理

ジャトコが取り扱う、PRTR※2対象化学物質の国内生産拠点合計の排出量と移動量は下表のとおりです。

■PRTR対象物質の取扱量と排出量（2012年度）

区分	化学物質名	取扱量	排出量			移動量
			大気	水域	土壌	廃棄物
特定第一種指定化学物質	ダイオキシン（mg-TEQ/ 年）	―	14.1	0	0	0.001
	ベンゼン	943	1	0	0	0
第一種指定化学物質	エチルベンゼン	3,031	7	0	0	0
	キシレン	142,508	51	0	0	0
	1,2,4-トリメチルベンゼン	104,708	0.3	0	0	0
	1,3,5-トリメチルベンゼン	1,978	22	0	0	0
	ノルマル - ヘキサン	1,779	5	0	0	0
	トルエン	43,569	29	0	0	0

単位：kg/年（ダイオキシン類はmg-TEQ/年）

用語解説

※1 有害大気汚染3物質：ジクロロメタン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレン
※2 PRTR：特定化学物質の環境への排出量の把握および管理の改善の促進に関する法律

環境活動

物流の取り組み

輸送にともなう環境負荷低減に向けて

物流の効率化を推進し、輸送にともなう環境負荷の低減を目指しています。

輸送手段の切り替えを進めています

輸送におけるCO_2の削減

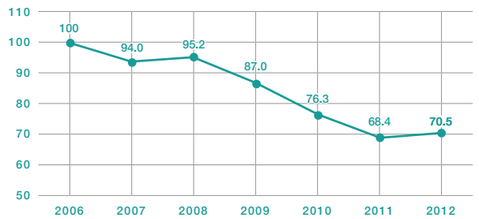
2012年度のCO_2排出量	30%削減（2006年度を基準として）

ジャトコではグリーン物流の目標として、「過去5年度間でCO_2排出量原単位（注）を年平均1%以上削減」を掲げて取り組んでいます（日本国内の物流を対象）。

2012年度は、中国尖閣諸島問題等による出荷量減が影響して対前年度では3%悪化してしまいましたが、5年度間平均では6.5%の削減を実現し、目標を達成しました。

（注）CO_2排出量（t-CO_2）÷輸送荷量（t·km）

■ CO_2排出量原単位推移（指数）



モーダルシフト

商品輸送にともなうCO_2排出量を削減するため、1994年より国内顧客の理解を得ながらモーダルシフトを推進しています。

具体的には、九州のお客さまへの商品輸送をトラックからフェリーに切り替え、CO_2削減率で75%の効果をあげています。

また、ジャトコの生産拠点である静岡までの調達部品を対象に、2005年度より広島方面（約780キロメートル）、2006年初頭からは岡山方面（約680キロメートル）からのトラック輸送を鉄道輸送へ切り替えました。この取り組みにより、1日の荷量10トントラック7台分がコンテナ16個分となり、年間83.3%（注）のCO_2削減につながりました。今後もモーダルシフトや積載効率アップによるトラック台数削減などを推進していきます。

（注）トラック輸送3,276トン-CO_2、JR輸送546トン-CO_2の比（日本貨物鉄道調べ）

フェリーによる海上輸送
（写真提供：商船三井フェリー株式会社）

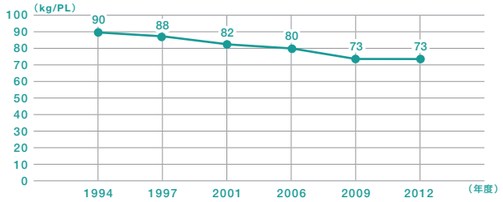
鉄道による陸上輸送

輸送・梱包資材の改善を進めています

荷姿の軽量化・梱包資材の簡素化

主としてお客さまへの商品納入に使用していた鉄製リターナブルパレットについて、輸送車両の燃費改善を図るため、樹脂製ダネッジ（トレー）の採用による軽量化を1997年より進めています。この軽量化策により、重量を約21%削減することができました。また、商品の保護材として使用しているビニール袋・仕切りなどの梱包資材に関して、仕様簡素化・リターナブル化・再利用可能な素材の採用などによるゴミの削減を推進しています。

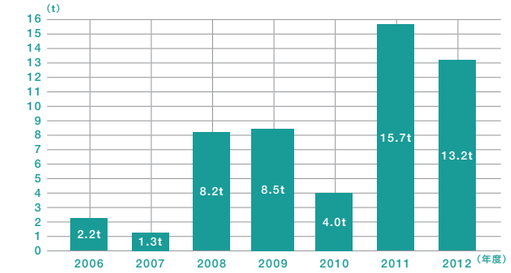
■パレットの軽量化の推移



樹脂製容器類の再利用・リサイクル

従来、商品の移動・保管に使用している樹脂製容器や商品保護のために使っている樹脂製緩衝材類は、劣化や商品の変化により使えなくなった場合、産業廃棄物として処分してきましたが、ジャトコでは2004年以降、ほかの商品への再利用のほか、樹脂製品製作会社にも協力いただき、原料としてリサイクルすることを開始し、廃棄量の削減を進めています。

■樹脂製容器類の再利用・リサイクルの推移



環境活動

環境コミュニケーション

環境を起点としたコミュニケーションを図っています

ジャトコの環境に対する考え方を知っていただくために、
さまざまなコミュニケーション活動を展開しています。

ジャトコの環境への取り組みを発信しています

環境社会報告書の発行

私たちの環境保全への取り組みを広くご理解いただくために、2005年から毎年「環境報告書」を発行しています。また、2009年からは「環境社会報告書」に改題し、社会面での取り組みの紹介をより充実させました。

ホームページでの開示

環境社会報告書に掲載しているさまざまな取り組みは、弊社ホームページでも公開しています。

http://www.jatco.co.jp/ENVIRONMENT/reports.html

ふれあいを中心としたコミュニケーション活動を展開しています

Shizuoka環境キャラバン隊への協賛

ジャトコは、"Shizuoka環境キャラバン隊"の活動に毎年協賛しています。この活動は、次代を担う子供たちの心に環境意識のタネを撒き力強く育てることを目的に、主に静岡県内の幼稚園や保育園においてキャラクターショーを実演したり、環境絵本を配布する活動です。子供たちが親しみやすいかたちで環境意識の育成を図っています。

「Shizuoka環境キャラバン隊」活動の様子

鮎の稚魚の河川放流（富士地区）

1999年度から毎年、地元幼稚園の園児を招いて行っている、田宿川への鮎の稚魚放流を、2012年6月11日に実施しました。14回目となる今回は、児童遊園「栄町児童遊び場」においてたくさんの園児にご参加いただき、約400匹の稚魚を放流しました。なお、この稚魚の購入は社内で回収したアルミ缶の売却益を充当しています。

児童による稚魚放流

「人とくるまのテクノロジー展2012」への出展

2012年5月23日～25日にパシフィコ横浜で開催された自動車技術展「人とくるまのテクノロジー展2012」に、ブースを出展。Jatco CVT7、Jatco CVT8をはじめ、軽自動車用から3.5リッタークラスの大型乗用車用までのCVTラインナップやハイブリッド車用トランスミッション、CVT性能向上・環境負荷低減への取り組み紹介などの展示を行い、多くの方にご来場いただきました。

「人とくるまのテクノロジー展」の展示ブース

緑の配布行事（蒲原地区）

ジャトコ蒲原地区事業所では、地元自治体が主催する小池川の清掃活動への協力、および地元の子どもたちに観葉植物などの鉢植えを贈呈する活動を、2004年度から実施しています。今年も、2012年7月1日に催行し、有志が参加しました。なお、この観葉植物などの購入は、社内で回収したアルミ缶の売却益も充当しています。

緑の配布

海外拠点での環境保全活動

ジヤトコのグローバル拠点においても、
それぞれに環境負荷低減のための取り組みを行っています

メキシコから

ジヤトコ メキシコでは、企業の社会的な責任として、全社員が意欲的に地球環境保護に取り組んでいます。

ジヤトコ メキシコの環境マネジメントシステム

ジヤトコ メキシコでは、2003年4月の設立以降、環境方針の制定や電力供給側からの省エネ活動、廃棄物分別の推進によるリサイクル率の向上など、さまざまな環境活動を推進してきました。特に2009年からは環境マネジメントシステムの構築を進め、その結果2010年3月の審査を経て、2011年5月にISO14001の認証を取得しました。今後は、このシステムを運用し、「環境とクルマが共生できる社会」の実現に取り組み、継続的な改善に努めていきます。

環境マネジメントシステムを運営するため、環境委員会、その副委員会である環境法的要求事項副委員会、省エネルギー副委員会の3つの委員会を設置しています。

環境委員会は、社長、副社長を筆頭に、各部署の代表で構成されており、環境に係る活動を総合的に審議、評価、フォローしています。また、環境法的要求事項副委員会は、環境担当者をはじめ、生産、安全健康、財務等に係るメンバーからなり、環境に係る法的及びその他の要求事項の特定、評価、適応を行っています。省エネルギー副委員会では、電力、水、ガス等、それぞれの動力源を使用しているショップごとに、効率的な運用を審議し、推進しています。

ジヤトコ メキシコ社　環境方針

ISO14001 登録証

環境マネジメントシステム構築の主なメンバー

ジヤトコ メキシコの継続的改善への取り組み

ジヤトコ メキシコでは、年度ごとに環境目標を設置し、環境負荷軽減の実現を目指しています。また、前年度の振り返りを実施し、次年度の目標を設定することで、環境マネジメントシステムの継続的改善を図っています。

項目	基準年度実績（基準年度）	2012年		評価
		目標	実績	
該当する法的項目の特定	—	100%	100%	○
一台※当たりの一般廃棄物発生量の削減	0.45 Kg(2009)	—	51.4%削減 0.219 Kg	○
一台※当たりの産業廃棄物発生量の削減	79.44Kg(2008)	—	70.2%削減 23.72 Kg	○
一台※当たりの電気の効率的な使用	153.17kwh(2008)	148.5 kwh	4%削減 147.02 kwh	○
鋳造工程の1部品当たりの水消費量の削減	0.063 m³(2008)	3%削減(基準年度比) 0.0611 m³/pza	12.69%削減 0.055 m³/pza	○

※CVT生産一台当たり　　評価/目標達成:○　目標未達成:×

中国から

ジヤトコ 広州では、広州市環境保護局の規制を遵守することはもちろんのこと、美しい自然を少しでも多く未来へ残せるよう、工場の新設や増築の際には、環境アセスメントを実施しています。

環境負荷の少ない工場めざし、環境アセスメントを実施しました。

ジヤトコ 広州ではますます増加する中国でのCVT需要に応えるため、2009年の工場新規建設以来、これまでに3回の拡張工事を実施しましたが、これら全ての工事において、工場が地域環境に与える影響を把握するため、環境アセスメントを実施しました。アセスメントは、工場排水、排気、生産工程から発生する環境負荷物質など、さまざまな要素について調査・評価を行うもので、広州市環境保護局の承認のもと、その結果を参考にしながら工場建設を進めてきました。特に、1回目の拡張工事以降、全ての建屋に、高効率照明はもとより、エネルギー効率の高い設備の導入を進めてきました。最近では、インフラ整備時だけでなく、日々の改善活動としても省エネに取り組んでおり、不要な事務所照明の間引き改善や、空調の温度管理などを始めています。これにより、中国の法規に沿ったクリーンな操業を実現します。

また、廃棄物に関して、ジヤトコ 広州では、工場設立と同時に、アルミ切粉やビニール、ダンボールなどのリサイクル体制の整備を開始しました。その結果、現在、リサイクル率70%を達成することができました。現在、拡張により、新たに増える廃棄物に対しても活動を推進中です。

タイから

2013年に生産開始したジヤトコ タイランド社では、環境負荷の低減を目指し、「ジヤトコ タイランド グリーンアクション」として、次のような環境負荷低減策を計画しています。

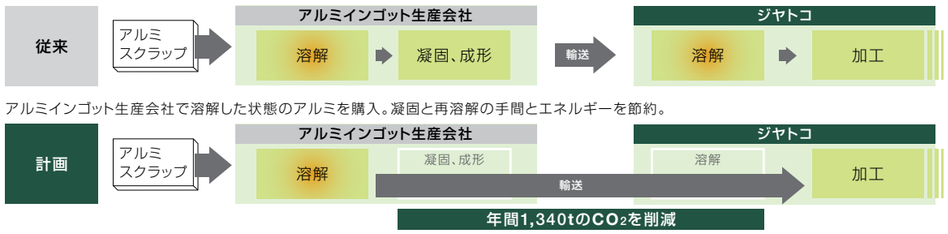
1. アルミインゴットの代わりに溶湯購入
2. 真空浸炭熱処理設備の導入
3. 工場排水の浄化
4. 資源材料の分別回収による再利用化
5. 工場用地内の緑地率極大化

なかでもユニークなのはアルミ溶湯購入です。立地条件を活かしジヤトコ タイランド敷地隣接のアルミインゴット生産会社から、インゴット（鋳物の塊）の代わりに溶湯（溶けたアルミ）を購入し、そのまま工場内の設備に投入することで、再溶解の際にでるCO_2の削減を図る計画です。

このようにジヤトコ タイランドは、地域に根ざした環境にやさしい工場を目指しています。

■アルミインゴット溶湯購入の仕組み

アルミインゴット生産会社でアルミを成形したものを、ジヤトコで再度溶解して使用。



執行役員　北城 武

［ジヤトコに関するさまざまなステークホルダー］

世界から求められる、魅力ある商品を提供し続けるために。ジヤトコは「人」を大切にします。

社員一人ひとりの成長が信頼関係をつくりだす。

クルマの環境性能が高いレベルで求められる現在、ジヤトコの商品は先進国･新興国の枠を超え、さまざまな市場で求められています。そして、その期待に継続的に応えるためには、より優れた商品を、より低コストにスピード感をもって提供し続けることが重要です。そのために、私たちはさらなるチャレンジを続けなければなりません。

ジヤトコでは、社員をかけがえのない財産と捉え「人財」と表記します。そして、個々人の持つ多様性を尊重し、持続的な成長を目指す共通のゴールに向かって、その力を最大限に発揮できるよう、職場での環境づくりを戦略的に進めています。社員一人ひとりが変革し挑戦することがジヤトコの持続的な成長につながり、ひいてはステークホルダーとの信頼関係の醸成につながると考えます。

地域社会との関係づくりは、まず社員が誇れる会社となること。

ステークホルダーとの信頼関係を構築するためには、良き企業市民として、地域社会と良好な関係を築いていくこともまた、大変重要なことです。しかし、ジヤトコが地域社会や地域住人から愛される企業であるためには、まず社員が誇れる企業であることが大切です。会社に誇りを持っている社員が、地域社会の中で品格ある良き住民として活動することが、社会との信頼関係の形成につながるのだと考えます。ジヤトコでは、社員一人ひとりの社会貢献活動を積極的に支援し、施設の提供や工場見学、体験イベントなどの事業活動で培った資源を活かしたジヤトコならではの社会貢献活動を行い、より豊かな未来を次世代に引き継ぐために持続可能な社会の発展に貢献したいと願っています。

さらなる躍進のために大切なもの。

ジヤトコが事業活動を行ううえで、お客さまである自動車メーカーや、部品を納入していただいているサプライヤーとの連携は不可欠です。2011年3月の東日本大震災では、ジヤトコのお客さま、サプライヤーの工場で大きな被害が発生しました。ジヤトコでは、各所の被害状況の把握や生産のための情報提供、被災された企業への復旧支援などに努めました。また、次いで発生した静岡県東部地震においては、今度はジヤトコの施設が大きな被害を被り、お客さまならびにサプライヤー企業の皆さまから、工場復旧のための多大なご支援をいただきました。サプライチェーンの一員として、企業間の連携の大切さを今も感じています。

この震災においては、大規模災害発生時にも事業が円滑に継続できるよう策定してあった対応プラン（BCP）を実行し、迅速な商品提供ができるよう社員が一丸となって取り組みました。この難局を乗り越えた団結力と経験は、きっとさらなる躍進への大きな足がかりとなると感じています。これからもステークホルダーの皆さまとともに、「お客さま･クルマ文化･社会」への価値を提供し続けるため、ジヤトコでは「人」の力の伸長を目指していきます。

緊急事態への対応

万一の事故・災害を想定し、万全の備えを整えています

サスティナブルな事業環境の構築のために

地震等の災害や、病気の流行、不慮の事故・トラブルが発生した際に、商品生産・供給に大きな影響がでないよう、さまざまな対策を準備しています。

BCM※における取り組み

大規模地震災害への対応

ジャトコのBCMの一環として、近い将来発生が懸念される大規模地震（震度6強以上）に対し、初動活動として人命救助、二次災害防止、また事業復旧活動としては、迅速かつ効果的な復旧を目標とした防災活動を進めています。

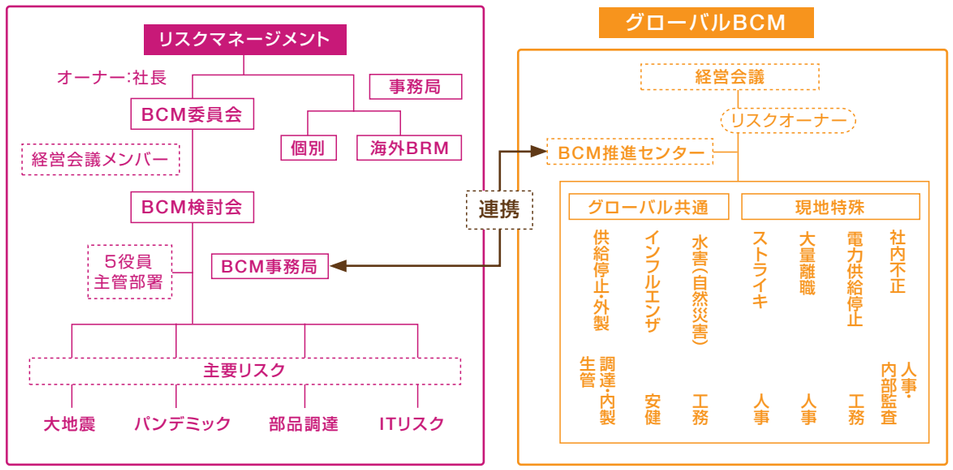
初動対応としては、2010年3月に緊急地震速報の整備が完了しました。さらに安否確認システムを各事業所で運用できるようにし、安否確認の時間短縮を図りました。また、毎年実施する訓練には、自衛消防隊活動を織り込み、社員全員で参加しています。

復旧対応としては、2008年度より関係部署を対象にBCMトレーニングを実施しています。このトレーニングは、想定する地震による被害状況をもとに自動車メーカー・サプライヤー対応、地域社会やメディア対応など、事業復旧に関する課題を各部署が連携して解決していくもので、このような訓練を繰り返し、迅速な対応を目指します。また、より円滑にBCMを展開するため、2011年度には、BCMルームの拡充を図り、緊急時の他、あらゆる事業継続に関わるリスクへの対応力を一層高めました。

このBCM整備で得られた経験は、メキシコや中国をはじめとする海外生産拠点でのBCM整備にも活用。ジャトコグループ全体で、BCMをグローバルに展開しています。

2011年3月に発生した地震時のBCM活動の様子

■BCM推進組織



用語解説

※ BCM:Business Continuity Managementの略で、事業継続マネジメントのこと。大規模災害、病気の流行など、企業が事業を継続できなくなる事態に備え、対応策を決めたり、そのプランが実行されるよう訓練などを行うこと。

従業員・設備の安全を守るために

建屋や設備の地震対策

大規模地震が発生した際の建屋・設備・従業員への被害を防ぎ、一日も早い工場機能の復旧を図ることができるよう、国内の主要生産拠点において建物の耐震補強や生産設備の固定、天井やクレーンからの落下物対策など、幅広い「地震対策」を実施しています。

サプライチェーンの一員として、お客さまの生産への影響を最小限にとどめることができるよう、常に対策を考えています。

新たに付加された固定器具

従業員の安全確保

大規模地震が発生した際に従業員の安全を確保するために、ジャトコでは避難場所や避難行動についての手順を細かく制定しています。

また、その浸透を図るため、日中・夜間などさまざまな状況を想定した訓練を、定期的に実施しています。その他にも、非常時には各拠点において帰宅が困難になる社員が発生することを想定し、水や食料、ヘルメット、毛布等の備品を備蓄しています。

横浜の拠点に備えられた防災備品

海外拠点における地震対策

グローバルに拡大するジャトコの海外拠点においても、万一の地震や大規模災害に備え、国内拠点と同様のBCM活動を展開していく予定です。

また、2013年7月に稼働開始したジャトコ タイランド社では、2011年に発生した大規模な洪水の教訓から、建屋の基礎となる盛り土を当初計画からさらに50cm増やし、津波・水害への備えを高めました。

盛り土を行った建築現場

地域の安全向上に協力しています

地域住人の避難協力

ジャトコでは、大規模災害が発生した場合に、避難場所のない地域住人の方々に、社内施設を緊急避難場所として提供できるよう、体制整備を実施。地域社会とともに歩むジャトコとして、地域の暮らしの安全・安心に、積極的に協力しています。

BCP（事業継続計画）の普及活動

ジャトコ本社のある富士市では、2008年度から地元の中小企業向け研修会によるBCPの普及活動を始めています。ジャトコは、活動を支援するため講師の派遣を行っています。

社会活動

サプライヤー（取引先）とともに

ともに成長していくパートナーシップを目指して

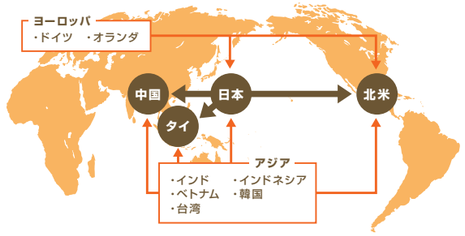
ジヤトコはサプライヤーとの信頼を基本に、互いの成長を目指した対等な立場での協力関係の維持･強化へ取り組んでいます。

サプライヤーとの協力関係の維持･強化と社会的発展に対する貢献

ジヤトコはサプライヤーとの信頼関係をもとに互いの成長と「クルマと環境が共生できる社会」の実現に向けて取り組んでいます。そのためには、公平･公正で透明性のある基準に則して協力しあうことが重要であり、グリーン調達に代表されるように、明確なルールに従ってサプライヤー選定や、優良企業に対する表彰を実施しています。今後、グローバル市場での調達が拡大するなか、CSR（Corporate Social Responsibility～企業の社会的責任）を共有化し、社会の持続的発展に対し今後も貢献していきます。

グローバル市場での調達

メキシコ、中国、タイでの生産の拡大に伴い、グローバル市場での公平性や部品輸送の距離の短縮を図るため、現地国産化やLCC化を推進していきます。



環境への取り組み

環境負荷物質　管理の推進

ジヤトコでは、製品内の環境負荷物質を、技術標準規格「JES M9001（特定物質の使用に関する制限）」で管理しています。グローバル市場の拡大に合わせ、近年は以下4項目を中心にサプライヤー各社とともに活動を推進しています。

①ジヤトコグリーン調達ガイドラインのグローバル展開
日本本社をはじめ、海外関係会社を含めたグローバル規模での環境負荷物質の管理を実施しています。

②新規サプライヤーへの適用標準化の実施
グリーン調達関係書類の提出を明記することにより、新規取引先の環境負荷物質の管理を促進しています。

③EU-REACH規則対応
管理対象を製品内の化学物質データに限らず、輸送時の梱包材、シッピングパーツの化学物質データ、また近年は生産工程内で使用する用品（マジックなどの文具など）まで管理対象を拡大しており、今後も絶え間なく環境負荷物質の抑制に努めてまいります。

④IMDSを活用した環境負荷物質管理の推進
『No Data, No Market』（データなければ、販売なし）の時代に則して、開発部門と共同でIMDS（材料データ収集システム）を使った精度の高いデータ管理をサプライヤーと協力し推進しています。

サプライヤーとの協調

グローバルでの環境意識の高まりに合わせ、グリーン調達活動をさらに推進いたします。

またジヤトコの目指す“クルマと環境が共生できる社会”の実現に特にご尽力いただいたサプライヤーの表彰を行っています。グローバルでの表彰に加え、2011年度より日本･メキシコ･中国の各拠点毎に貢献していただいたサプライヤーに対する表彰も実施しています。今後もサプライヤーとの関係を深めながら,環境への取り組みに努めてまいります。

グリーン調達の概要

当社のグリーン調達活動は、取引先から供給いただく製品を通して環境保全に取り組む活動です。ポイントは以下の3項目となります。
①グリーン調達推進への意思確認
②環境マネジメントシステムの構築
③環境負荷物質使用状況の報告
当社は、グリーン調達活動を積極的に推進されている企業からの製品購入を優先いたしております。
また取引先に対しましても当社と同様、製品購入先を決定する際には、グリーン調達活動を推進されている企業を優先していただくようお願いしています。

JATCO News

サプライヤー表彰とビジョンの共有化

ジヤトコの製品を支えていただいているサプライヤーの中から、特に貢献していただいた数社を選定して各年度ごとに表彰し、感謝の意と,今後も変わらないパートナーシップを確認しています。
新製品の開発、生産量拡大への対応など貢献していただいた項目はさまざまですが、トランスミッションを通した"クルマと環境が共生できる社会"に向けてのビジョンを、ジヤトコとサプライヤーは共有化しています。

2012年度表彰式写真

社会活動

社員と職場づくり

安全第一の職場づくりを目指しています

職場のリスクアセスメント活動の活性化や社員の健康管理により、すべての社員が安全で快適に働ける職場づくりを行っています。

労働安全の確保

「すべての安全活動はリスクアセスメント活動に通じる」を合言葉に、現場のリスクを幅広い層から多くの視点で発掘する「リスクの洗い出し会」をはじめSES I※1、5Sパトロール、工場（課）安全パトロール、公開作業観察、安全専念観察など「現場を観る活動」を中心として安全活動に取り組んでいます。特に異常処理作業は、労働災害発生のリスクが高いばかりでなく、生産活動のロスでもあり、その撲滅に重点をおいています。

各活動で検出されたリスクを登録して、リスクの大きさに応じて対応の優先度や適切な対応策を決め、設備改善などのハード対策や、教育･指導などのソフト対策をスピーディーに実施することで、“災害ゼロから危険ゼロ”を目指しています。

リスクの洗い出し会の様子

社員の健康づくり（労働衛生）に向けて

メンタルヘルスの取り組み

社員が、心身ともに健康維持を図れるよう取り組みを進めています。メンタルヘルスの取り組みとして、EAP※2の専門機関と提携し、社員とその家族も相談･受診やカウンセリングが利用できるようにしています。

社員の生活習慣の改善

生活習慣病やメタボリックシンドローム対策として、健康診断を基に、対象者を抽出し保健指導を実施しています。面談後のフォローなど継続的な支援を行い、着実に改善が進み目標が達成できるよう、さまざまな指導をしています。

生活習慣病予防の指導

禁煙活動

喫煙場所の削減、喫煙時間の設定やタバコ社内販売中止等の禁煙活動に加え、2011年度は、5月31日の世界禁煙デーを契機に“月に1度の禁煙日”を設定し、禁煙に対して社員の意識の高揚を図っています。また、卒煙講習会の実施や禁煙補助薬による禁煙治療も行っています。

禁煙活動の告知ポスター

新型インフルエンザへの対応

2009年に新型インフルエンザが流行した際、社員の行動ガイドラインを作成し周知徹底することで、感染者の発生を最小限に止めることができました。なお、この活動は第83回 日本産業衛生学会にて発表しています。

その後、強毒性の新型インフルエンザへの対応は、「新型インフルエンザ対応マニュアル」を定め、基本方針（人命第一、感染の防止、事業継続）に沿ったアクションプラン他により、円滑な事業継続を目指しています。

用語解説
※1 SESI:Safety Evaluation Systemの略。職場の安全レベルを定量的に評価するシステム（ジヤトコ安全評価基準）
※2 EAP=従業員支援プログラム（Employee Assistance Program）。

社員と職場づくり

一人ひとりが成長できる職場づくりを目指しています

ジヤトコでは、時流に即した人財育成と多様性の尊重を実践し、
社員一人ひとりが成長を実感でき、働きがいのある職場づくりを目指しています。

グローバルな人財育成に取り組んでいます

グローバル化への対応

海外拠点との人財交流プログラム

今後の海外市場の拡大に対応できる、グローバル人財としての早期成長を目指すことを目的として、若手社員を対象とした海外拠点との人財交流プログラムを実施しています。業務だけでなく、日常生活も含めたさまざまな経験を通して、グローバル感覚を身につけることが出来ることを目指しています。

グローバル教育プログラム

語学（英語、中国語、タイ語等）だけではなく、グローバル化に必要な、さまざまなコミュニケーション研修（アサーティブ、ディベートなど）、海外異文化研修などを実施し、グローバル化のスキル、マインドを高めています。

海外の生産現場を支える人材育成支援

ジヤトコが、これまで日本の生産現場で永年に亘り構築してきた、現場管理のノウハウや専門技能を、海外拠点でも同じ考え方、やり方で運営・実践できるよう、海外各拠点に移植していく一環として、現地社員の人材育成を進めています。

既に中国のジヤトコ 広州では、当社からの出向者による取組みにより、こうした日本と同じやり方での人材育成を進めていましたが、2013年度は更に取組みを拡大させ、ジヤトコ メキシコ社へ当社のインストラクター6名を2ヶ月半に亘り派遣し、メキシコ人監督者を各講座のトレーナーとして養成しています。今後は、同様の活動をジヤトコ タイランド社へも拡大していく予定であり、その養成されたトレーナーを介して、世界のジヤトコで働く全ての社員の人材育成・レベルアップを目標としています。

メキシコ拠点での指導の様子

一人ひとりの自律的な成長をサポートしています

自律性のある人財の育成

新入社員がどこの部署に配属されても活き活きと成長できるよう、新入社員の配属先の直属の先輩にあたる社員が、仕事や会社生活をスムーズに進めるための指導やアドバイスを行う「フレッシュマンリーダー制度」を導入しています。

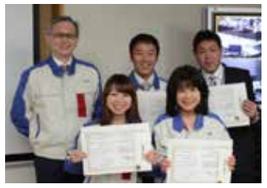
自ら学ぶ意識の醸成

自ら学ぶ意欲のある社員を支援するため、自ら希望して受講することのできる教育を準備しています。内容は、業務に直結するものから直接は関係しない自己啓発プログラムまで多数の講座をそろえ、受講機会を提供しています。

認め、褒める風土づくりを推進しています

サンクスカード制度

「ありがとう」の気持ちをカードに書いて渡すことで、ほめる風土づくりを進め、受け取った社員の次のアクションへのモチベーションを高めることを目的とした「サンクスカード制度」を導入しています。年に2回、多くの「ありがとう」を受け取った社員に対し「THANKS AWARD」表彰を実施しています。


THANKS AWARDの表彰

表彰制度

会社の業績や名誉を高める功績や善行に対して「社長表彰」「役員表彰」を行っています。功績や善行を正しく評価し認め、表彰することを通じ、社員が意欲を持って業務に取り組むことのできる環境を整備しています。

社長表彰

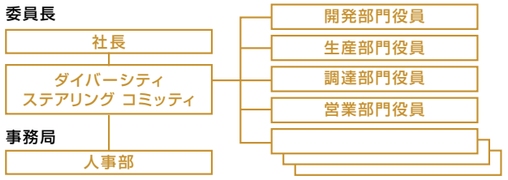
社員の多様性を尊重しています

経営課題として取り組むダイバーシティ

グローバルにビジネスを展開し、時代の変化に対応しながらお客さまにより良い価値を提供し続けていくためには、多様な視点を取り入れながら、新しい価値を創造することが必要です。その観点から、ジヤトコはダイバーシティを経営課題として位置づけ、さまざまな取り組みを行っています。

2008年度からは、社長を委員長、経営層をメンバーとした「ダイバーシティ ステアリング コミッティ」を設置し、性別や国籍などにとらわれない採用や人財配置を、積極的に進めています。

■ダイバーシティ ステアリング コミッティの組織図



多国籍人財の活躍推進

ダイバーシティの取り組みの一つとして、国籍にとらわれない採用推進に取り組んでおり、既に社内では、さまざまな国籍の社員が活躍しています。（中国・韓国・メキシコほか）また、各海外拠点との人財、技術交流推進にも取り組んでおり、新プロジェクトの検討時など、ALLジヤトコとして海外拠点メンバーを含めた関係者一丸となって課題解決に取り組んでいます。

海外拠点メンバーとの交流のようす

ワーク・ライフ・バランス

誰もが安心して活き活きと働ける職場環境を目指し、ジヤトコでは仕事と生活の両方を充実させる「ワーク・ライフ・バランス」の考え方を大切にしながら、社員が個々の事情に応じて働くことのできる制度の拡充を進めています。また、この「ワーク・ライフ・バランス」を、ダイバーシティの推進を支える施策の一つと位置づけ、育児・介護との両立を支援するための各種制度の整備を年々充実させています。

ジヤトコの取り組みは、社外からも高い評価を受けています。

ジヤトコでは、出産時の父親の休暇取得促進、就業時間短縮制度の対象年齢引き上げなど、男性の育児参加の積極的な支援が評価され、2009年、2012年に、厚生労働大臣が定める「次世代認定マーク（愛称：くるみん）」を取得しました。これは、次世代育成支援対策推進法にもとづく一般事業主行動計画を策定、実施し、計画に定めた目標を達成するなど、一定の要件を満たした企業に対して与えられるマークです。

また、2013年9月に厚生労働省の均等・両立推進企業表彰において、女性の能力発揮を促進するために、他の模範ともいうべき取組を推進している企業に贈られる均等推進企業部門「静岡労働局長優良賞」を受賞しました。

次世代認定マーク・愛称「くるみん」

JATCO Voice

グローバル人財育成

ジヤトコはグローバルに活躍できる人財の育成に取り組んでいます。私は、人事部でこの重要なタスクに取組んでおり、語学教育のみならず、海外異文化理解、グローバル・コミュニケーション・スキルアップの教育プログラムを運営しています。今年度(2013年度)は、入社2年目社員全員を対象とする「2年目社員海外研修」をスタートさせ、ベトナムで実施しました。

参加者からは「実際に海外に出て、肌で海外を感じることで、海外でもやっていける自信がついた。」という評価を頂きました。

これからも、入社間もない若手社員はもちろんのこと、ジヤトコ社員全員のグローバル・マインドを高められる教育プログラムを企画・実施することで、ジヤトコのグローバル・ビジネスに貢献していきます。

グローバル人財育成

人事部
李 秀烈（イ スヨル）

地域社会とのきずな

地域社会の一員として、社会貢献活動に力を入れています

良き企業市民であるために、地域社会への継続的な貢献は不可欠です。
ジヤトコでは、それぞれの地域に根ざしたコミュニケーション活動を行っています。

地域への施設などの提供を行っています

イベントへの協力

体育館やテニスコートなどの厚生施設を地域住民に開放しているほか、ジヤトコフェスタなどのイベント開催を通じて、地域社会とのコミュニケーションを図っています。また、地域の夏祭りなどのイベントに協賛し、送迎バスや駐車場の提供を行い、地域活動に貢献しています。

八木地区で開催されたジヤトコフェスタ

富士市で開催される吉原祇園まつり

里親会への支援

富士市里親会では、毎年10月にディズニーツアーなどの研修交流会を開催しており、参加者同士楽しみながら、お互いの交流を深めています。

ジヤトコでは活動の主旨に賛同し、毎年、研修交流会時のバスの提供を行っています。

社会科・環境教育の一環として、工場見学を行っています

地域の小・中学生に向けた社会科・環境教育の一環として、家族も含めた工場見学者の受け入れを行っています。クルマとトランスミッションの関係や変速のしくみを説明するとともに、加工から組立現場の見学を行い、モノづくりの大変さや排水処理場やリサイクルのしくみなどを通じた環境保全の大切さを教えています。

工場見学のようす

地域に根ざした社会貢献に取り組んでいます

地域の清掃活動

各地域での清掃活動に積極的に参加し、美化・環境活動を行っています。また、各拠点では「環境の日」を定め、昼休み時間を利用した工場周辺の草刈りやゴミ拾いなどを定期的に実施しています。

清掃活動

植林活動への参加

富士山麓ブナ林創造事業に参加し、貴重な自然を後世に継承しています。

ブナ苗木参加者

「富士総合運動公園クリーン作戦」への参加

「小さな親切」運動静岡県本部では、「クリーン作戦」を県内各地で開催しました。当社からも多くの方が積極的に参加しています。

クリーン作戦の様子

児童施設の支援

毎年継続して、富士市・南丹市の幼稚園・保育園などに、絵本と童話の贈呈を行い施設の活動に協力しています。

児童施設への支援

福祉施設での奉仕作業

静岡県・京都府の各地区において近隣の福祉施設を訪問し、施設内の清掃や草刈りなどの奉仕作業を継続的に行っています。

福祉施設での奉仕作業

高校生のボランティアを支援

アフガニスタンの子どもたちに贈るため、静岡県立富士高校生徒会が集めたランドセルおよそ180個。船積みする横浜港の倉庫までの輸送部分を、ジヤトコがお手伝いしています。

静岡県立富士高校生徒会の皆様

地元工業高校でのインターンシップ

熟練技能の伝承や若手技術者の早期育成のためジヤトコ社内で開講しているトレーニングセンター「技能塾」では、近隣の技術専門校に講師を派遣し、高度な技術の指導をしています。また、素材から加工・組立までのモノづくりを知り、実際の職場で必要な技能教育実習を通して、職業観・就労観を養い、関連する教科の理解を深めるとともに、進路選択の一助とすることを目的に、地元工業高校のインターンシップを受け入れています。

教育支援

体験イベントへの協力

2012年8月3日・4日にパシフィコ横浜で開催された、自動車を中心とした体験型イベント「キッズエンジニア2011」に協力しました。イベントに参加した子どもたちが、将来、日本を支える技術者になってくれることを期待して、ジヤトコは第1回から協力しています。

キッズエンジニア

JATCO Voice

地域との絆を大切に。

私たちジヤトコは行政・市民団体などと密接した社会貢献活動に継続して参加しています。特に環境活動に参加していると、いろいろな出会いがあり、「ジヤトコは毎年多くの方が参加してくれますね。」など声を掛けられます。
やはり、世間から注目されている会社だと誇りに思います。

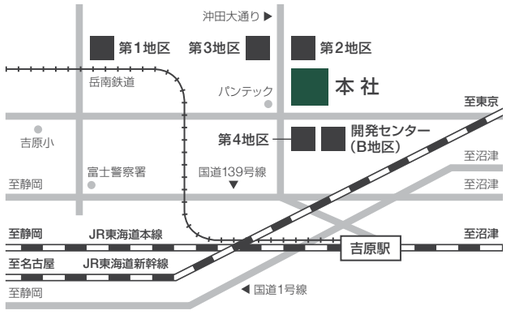
今後も様々な形で地域と密接した社会貢献活動を積極的に推進していきます。
みなさん、ジヤトコの代表として、積極的に社会貢献活動に参加しましょう。

涉外担当
総務部
小花 浩司

各生産拠点の環境データ

※記載地区以外は、廃棄や排水を当社が直接行っていないため、サイトデータを記載していません。

富士地区
［本社含む］
敷地：580,440m²
建物（延べ）：389,403m²



■大気
NOx：窒素酸化物　SOx：硫黄酸化物　ND：定量下限値以下

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
小型ボイラー（24 基）	ばいじん	g /Nm³	0.05	ND	ND
	NOx	ppm	100	91.8	46
	SOx	Nm³/H	0.002	ND	ND
金属加熱炉（16 基）	ばいじん	g /Nm³	0.05	0.043	0.019
	NOx	ppm	150	144	74
	SOx	Nm³/H	0.018	ND	ND
鋼材加熱炉（8 基）	ばいじん	g /Nm³	0.05	0.008	0.004
	NOx	ppm	150	50	25
	SOx	Nm³/H	0.026	0.001	0.0001
アルミ溶解炉（10 基）	ばいじん	g /Nm³	0.05	0.043	0.007
	NOx	ppm	150	53	30
	SOx	Nm³/H	0.019	ND	ND
	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm³	5	0.320	0.057
乾燥炉（1 基）	ばいじん	g /Nm³	0.05	0.048	0.036
	NOx	ppm	56	20	18
	SOx	Nm³/H	0.0048	ND	ND
	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm³	5	0.000012	0.000012
乾燥焼却炉（1 基）	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm³	5	0.000027	0.000027

■水質
規制値の（　）内は日間平均　ND：定量下限値以下

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
水素イオン濃度（pH）	―	5.8 ～ 8.6	7.6	7.3
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	9.6	5.8
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	20（15）	12.9	9.3
浮遊物質量（SS）	mg/L	20（10）	3.0	1.8
n －ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	4	ND	ND
銅	mg/L	0.1	ND	ND
亜鉛	mg/L	0.1	0.07	0.05
大腸菌群数	個 /cm³	3000	10	3
トリクロロエチレン	mg/L	0.3	ND	ND
ジクロロメタン	mg/L	0.02	ND	ND
ホウ素	mg/L	10	0.1	0.1
フッ素	mg/L	15	ND	ND
アンモニア性窒素 硝酸性窒素 亜硝酸性窒素	mg/L	100	1.1	0.9

蒲原地区
敷地：78,423m²
建物（延べ）：58,033m²

■大気
NOx：窒素酸化物　SOx：硫黄酸化物　ND：定量下限値以下

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
灯油ボイラー（2 基）	ばいじん	g /Nm³	0.1	0.002	0.002
	NOx	ppm	130	88	66
	SOx	Nm³/H	0.045	ND	ND
金属加熱炉（3 基）	ばいじん	g /Nm³	0.05	0.028	0
	NOx	ppm	150	130	96.5
	SOx	Nm³/H	0.01	ND	ND
アルミ溶解炉（1 基）	ばいじん	g /Nm³	0.05	0.018	0.013
	NOx	ppm	100	18	18
	SOx	Nm³/H	0.013	ND	ND
	ダイオキシン	ng-TEQ/Nm³	5	0.45	0.45

■水質
規制値の（　）内は日間平均　ND：定量下限値以下

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
水素イオン濃度（pH）	―	5.8 ～ 8.6	7.5	7.5
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	1.1	1.0
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	25（20）	4.4	4.2
浮遊物質量（SS）	mg/L	40（30）	3.0	2.5
n －ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	5	ND	ND
大腸菌群数	個 /cm³	1000	24	24
ジクロロメタン	mg/L	0.02	ND	ND
ホウ素	mg/L	10	ND	ND
フッ素	mg/L	8	ND	ND
アンモニア性窒素 硝酸性窒素 亜硝酸性窒素	mg/L	100	62.2	60.0

富士宮地区
敷地：67,698m²
建物（延べ）66,756m²

■大気
NOx：窒素酸化物　SOx：硫黄酸化物　ND：定量下限値以下

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
小型ボイラー（6 基）	ばいじん	g / Nm ³	0.05	0.002	0.001
	NOx	ppm	100	86	77
	SOx	Nm ³/ H	0.01	ND	ND
金属加熱炉（3 基）	ばいじん	g / Nm ³	0.01	0.009	0.006
	NOx	ppm	150	140	82
	SOx	Nm ³/ H	0.01	ND	ND

■水質
規制値の（　）内は日間平均　ND：定量下限値以下

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
水素イオン濃度（pH）	―	5.8 ～ 8.6	7.5	7.3
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	7.9	4.3
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	20（15）	2	1.4
浮遊物質量（SS）	mg/L	20（15）	ND	ND
n －ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	5	ND	ND
フェノール類	mg/L	5	ND	ND
銅	mg/L	3	ND	ND
亜鉛	mg/L	2	0.04	0.03
溶解性鉄	mg/L	10	0.18	0.13
溶解性マンガン	mg/L	10	ND	ND
クロム	mg/L	2	ND	ND
大腸菌群数	個 /cm³	3000	0	0
1・1・1 －トリクロロエタン	mg/L	0.001	ND	ND
ホウ素	mg/L	10	0.10	0.10
アンモニア性窒素 硝酸性窒素 亜硝酸性窒素	mg/L	100	0.5	0.5

掛川地区
敷地：95,522m²
建物（延べ）：14,954m²

■大気
NOx：窒素酸化物　SOx：硫黄酸化物　ND：定量下限値以下

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
小型ボイラー（2 基）	ばいじん	g / Nm ³	0.05	0.003	0.003
	NO x	ppm	100	73	72
	SO x	Nm ³/ H	0.01	ND	ND

■水質
規制値の（　）内は日間平均　ND：定量下限値以下

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
水素イオン濃度（pH）	―	5.8 ～ 8.6	7.8	7.3
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（15）	5.5	2.2
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	80（60）	20.3	12.8
浮遊物質量（SS）	mg/L	20（10）	4.3	2.1
n －ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	3	ND	ND
フェノール類	mg/L	2.5	ND	ND
銅	mg/L	0.5	ND	ND
亜鉛	mg/L	2	0.08	0.07
溶解性鉄	mg/L	5	0.34	0.32
溶解性マンガン	mg/L	5	0.02	0.02
クロム	mg/L	1	ND	ND
大腸菌群数	個 /cm³	3000	330	54
カドミウム	mg/L	0.05	ND	ND
シアン	mg/L	0.5	ND	ND
有機燐	mg/L	1	ND	ND
鉛	mg/L	0.1	ND	ND
六価クロム	mg/L	0.25	ND	ND
砒素	mg/L	0.1	ND	ND
総水銀	mg/L	0.0005	ND	ND
アルキル水銀	mg/L	不検出	ND	ND
PCB	mg/L	0.001	ND	ND
トリクロロエチレン	mg/L	0.1	ND	ND
テトラクロロエチレン	mg/L	0.05	ND	ND
四塩化炭素	mg/L	0.01	ND	ND
1・1・1 －トリクロロエタン	mg/L	1	ND	ND
ホウ素	mg/L	10	ND	ND
アンモニア性窒素 硝酸性窒素 亜硝酸性窒素	mg/L	100	3.0	1.8

京都地区

■大気
NOx：窒素酸化物　SOx：硫黄酸化物　ND：定量下限値以下

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
小型ボイラー（1 基） 指導要綱	ばいじん	g / Nm ³	0.1	0.003	0.003
	NO x	ppm	150	34	29
	SO x	Nm ³/ H	0.00	不検出	不検出
都市ガスボイラー（1 基）	ばいじん	g / Nm ³	0.1	0.004	0.004
	NO x	ppm	150	82	82
	SO x	Nm ³/ H	0.49	不検出	不検出

八木地区
敷地：233,323m²
建物（延べ）：68,277m²

■大気
NOx：窒素酸化物　SOx：硫黄酸化物　ND：定量下限値以下

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
小型ボイラー（11 基）	ばいじん	g / Nm ³	0.1	不検出	不検出
	NO x	ppm	150	77	59
	SO x	Nm ³/ H	0.00	不検出	不検出
連続浸炭炉（11 基）	ばいじん	g / Nm ³	0.1	0.084	0.005
	NO x	ppm	150	140	33
	SO x	Nm ³/ H	0.00	不検出	不検出

■水質
規制値の（　）内は日間平均　ND：定量下限値以下

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
水素イオン濃度（pH）	―	5.8 ～ 8.6	7.5	7.3
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	20（10）	2.5	1.7
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	30（20）	4.9	3.2
浮遊物質量（SS）	mg/L	30（20）	0.7	0.6
n －ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	2.5	0.5	0.5
フェノール類	mg/L	0.5	0.1	0.1
銅	mg/L	1.5	0.01	0.01
亜鉛	mg/L	2	0.04	0.04
溶解性鉄	mg/L	5	0.1	0.1
溶解性マンガン	mg/L	5	0.1	0.1
クロム	mg/L	1	0.01	0.01
大腸菌群数	個 /cm³	1500	0	0
窒素	mg/L	120（60）	13.4	10.0
ニッケル	mg/L	1	0.01	0.01
燐	mg/L	16（8）	0.2	0.1
ホウ素	mg/L	10	0.4	0.3
フッ素	mg/L	8	0.2	0.2

ジャトコ メキシコ社

■大気
NOx：窒素酸化物　SOx：硫黄酸化物　ND：定量下限値以下

施設名	項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
金属加熱炉（2 基）	ばいじん	mg/m³	570.11～521.45	55	45
	NO x	Kg/hr	-	211.610	24.630
アルミ溶解炉（2 基）	ばいじん	mg/m³	1248.22～1144.41	67.09	43.44
	NO x	Kg/hr	-	-	-

■水質
規制値の（　）内は日間平均　ND：定量下限値以下

項目	単位	規制値（協定値含）	実測値 最大	実測値 平均
水素イオン濃度（pH）	―	5 ～ 10	7.6	6.96
生物化学的酸素要求量（BOD）	mg/L	150	45.8	20.7
化学的酸素要求量（COD）	mg/L	320	86.82	71.7175
浮遊物質量（SS）	mg/L	150	18	12.5
n －ヘキサン抽出物質（鉱油類）	mg/L	25	9.2	6.2725
銅	mg/L	4	0.25	0.1775
亜鉛	mg/L	10	0.238	0.170675

ジャトコ（広州）自動変速機有限公司

■大気および水質：該当無し

環境活動のあゆみ

会社沿革

1943

日産自動車株式会社の航空機部吉原工場として稼働（8月）

1970

日産自動車株式会社・マツダ株式会社
（当時：東洋工業株式会社）・米国フォードの合弁により
日本自動変速機株式会社設立（1月）

三菱自動車工業株式会社設立（4月）

1989

日本自動変速機株式会社が
ジャトコ株式会社に社名変更（10月）

1999

日産自動車株式会社のAT・CVT部門が分社・独立し、
トランステクノロジー株式会社設立（6月）

トランステクノロジー株式会社とジャトコ株式会社が合併し、
ジャトコ・トランステクノロジー株式会社として
スタート（10月）

2002

ジャトコ株式会社に社名変更（4月）

三菱自動車工業株式会社のAT・CVT部門が分社・独立し、
ダイヤモンドマチック株式会社設立（4月）

2003

ダイヤモンドマチック株式会社と合併（4月）

メキシコにCVT生産会社ジャトコ メキシコ社設立（4月）

フランスにジャトコ フランス社設立（10月）

2004

韓国にジャトコ 韓国サービス社設立（5月）

2007

中国にジャトコ（広州）自動変速機有限公司設立（4月）

2011

タイにジャトコ タイランド社設立（7月）

環境・品質活動

1998

ジャトコ株式会社がISO14001認証取得
（現本社、富士宮、掛川地区）（6月）

三菱自動車工業株式会社京都製作所が
ISO14001認証取得（11月）

三菱自動車工業株式会社水島製作所が
ISO14001認証取得（12月）

1999

日産自動車株式会社富士工場が
ISO14001認証取得（現富士、蒲原地区）（1月）

2000

QS9000認証取得（4月）

2001

ISO14001更新審査（2月）

2002

ダイヤモンドマチック株式会社京都地区が
ISO14001認証取得（現京都、八木地区）（12月）

2003

ダイヤモンドマチック株式会社水島事業所が
ISO14001認証取得（現水島地区）（3月）

ISO14001更新審査（11月）

2004

関連会社ジャトコ エンジニアリング株式会社が
ISO14001認証取得（2月）

2005

ISO/TS 16949認証取得（2月）

2006

ISO14001更新審査（12月）

2008

静岡県知事褒章「産業廃棄物適正処理推進功労賞」受賞（5月）

2009

富士第1、2、3、4、蒲原地区がエネルギー管理優良工場など表彰
「資源エネルギー庁長官賞」受賞（2月）

環境性能に優れた、Jatco CVT7量産

2010

ハイブリッド車用トランスミッションを量産

2011

ジャトコメキシコがISO14001認証取得（5月）

1943

1970

1989

1992
リオデジャネイロ地球サミット

1993
環境基本法制定

1997
京都でCOP3開催

1998

1999

2000

2001

2002
ヨハネスブルグ地球サミット
改正自動車NOx・PM法施行

2003

2004

2005
自動車リサイクル法施行
京都議定書発効

2006

2007

2008
京都議定書第一約束期間開始

2009
国際再生可能エネルギー機関
（IRENA）設立

2010

2011

2012

会社情報

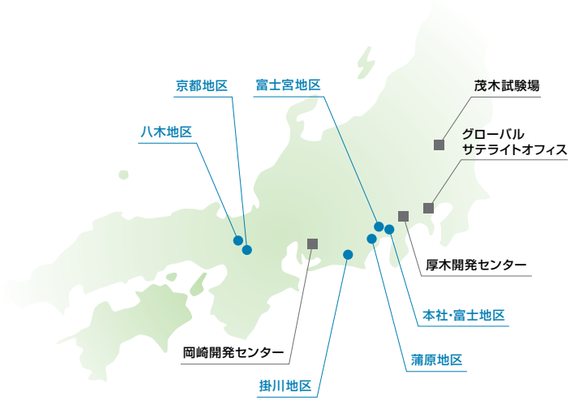
会社概要

社名	ジヤトコ株式会社
設立	1999 年 6 月 28 日
本社	静岡県富士市今泉 700 番地の 1
事業内容	変速機および自動車部品の開発、製造および販売
資本金	299 億 3,530 万円
従業員数（連結）	11,965 名（2013 年 3 月 31 日現在）
連結売上高（参考）	5,595 億円（2010 年度） 6,025 億円（2011 年度） 5,925 億円（2012 年度）
主要納入先	日産自動車株式会社、三菱自動車工業株式会社、スズキ株式会社、東風汽車有限公司、ルノー など

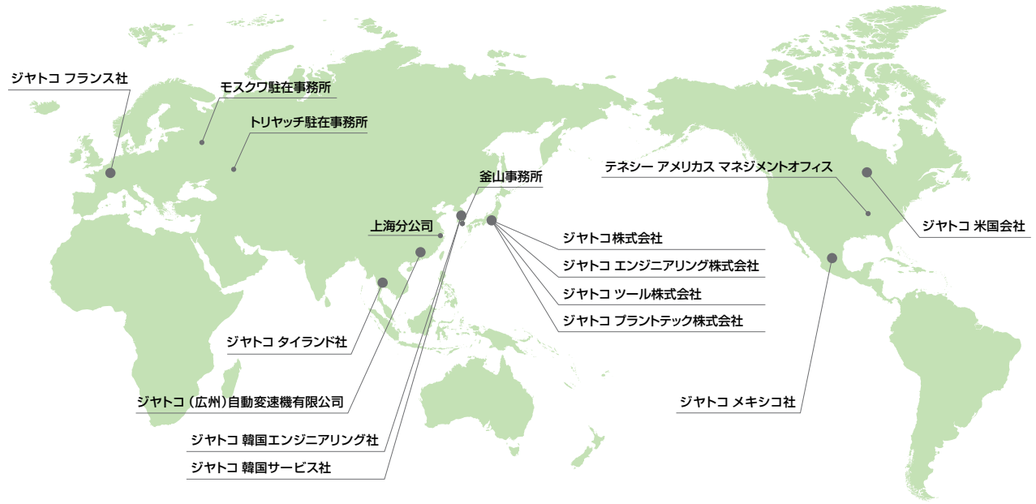
全国拠点

● 本社・富士地区	静岡県富士市今泉 700 番地の 1
■ グローバルサテライトオフィス	神奈川県横浜市港北区新横浜 2丁目8番12号
● 蒲原地区	静岡県静岡市清水区蒲原 4905 番地の 11
● 富士宮地区	静岡県富士宮市山宮 3507 番地の 16
● 掛川地区	静岡県掛川市淡陽 16 番地
● 京都地区	京都府京都市右京区太秦荒木町 1 番地
● 八木地区	京都府南丹市八木町室橋山田 10 番地の 1
■ 厚木開発センター	神奈川県厚木市岡津古久 560 番地の 2
■ 岡崎開発センター	愛知県岡崎市橋目町中新切 1 番地
■ 茂木試験場	栃木県芳賀郡茂木町鮎田 555 番地

※上記拠点のうち、●は環境マネジメントシステムサイトです。



グローバル拠点 ※関係会社含む



関係会社・駐在事務所など	ジャトコ エンジニアリング株式会社／静岡県富士市	ジャトコ 韓国エンジニアリング社／韓国	テネシー アメリカス マネジメントオフィス／アメリカ
	ジャトコ ツール株式会社／静岡県富士市	ジャトコ 韓国サービス社／韓国	釜山事務所／韓国
	ジャトコ プラントテック株式会社／静岡県富士市	ジャトコ（広州）自動変速機有限公司／中国	上海分公司／中国
	ジャトコ 米国会社／アメリカ	ジャトコ フランス社／フランス	トリヤッチ駐在事務所／ロシア
	ジャトコ メキシコ社／メキシコ	ジャトコ タイランド社／タイ	モスクワ駐在事務所／ロシア

Jatco

The mission is passion.

ジヤトコ株式会社　本　社　〒417-8585　静岡県富士市今泉700番地の1　TEL.0545-51-0047（代）　FAX.0545-51-5976　www.jatco.co.jp